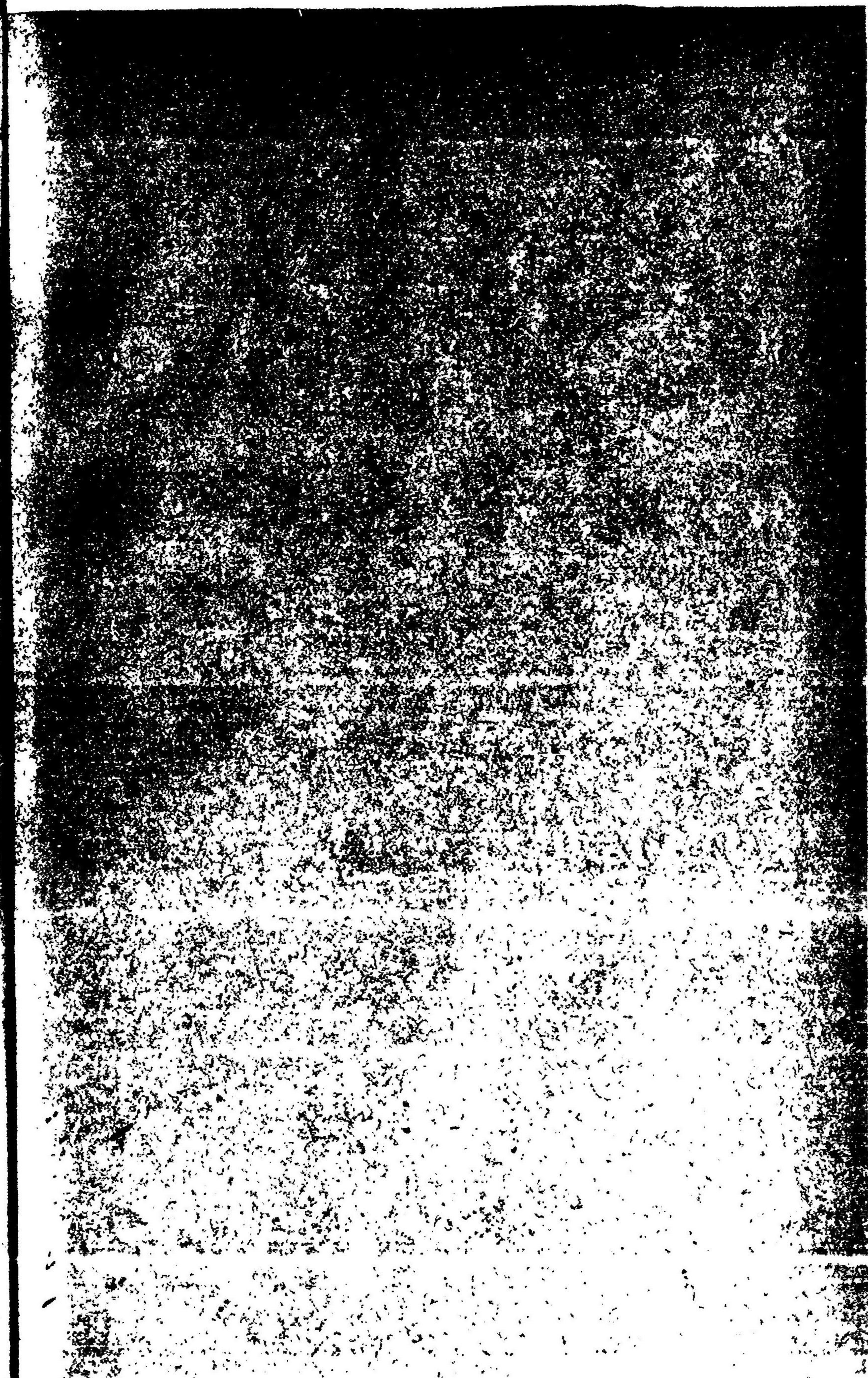
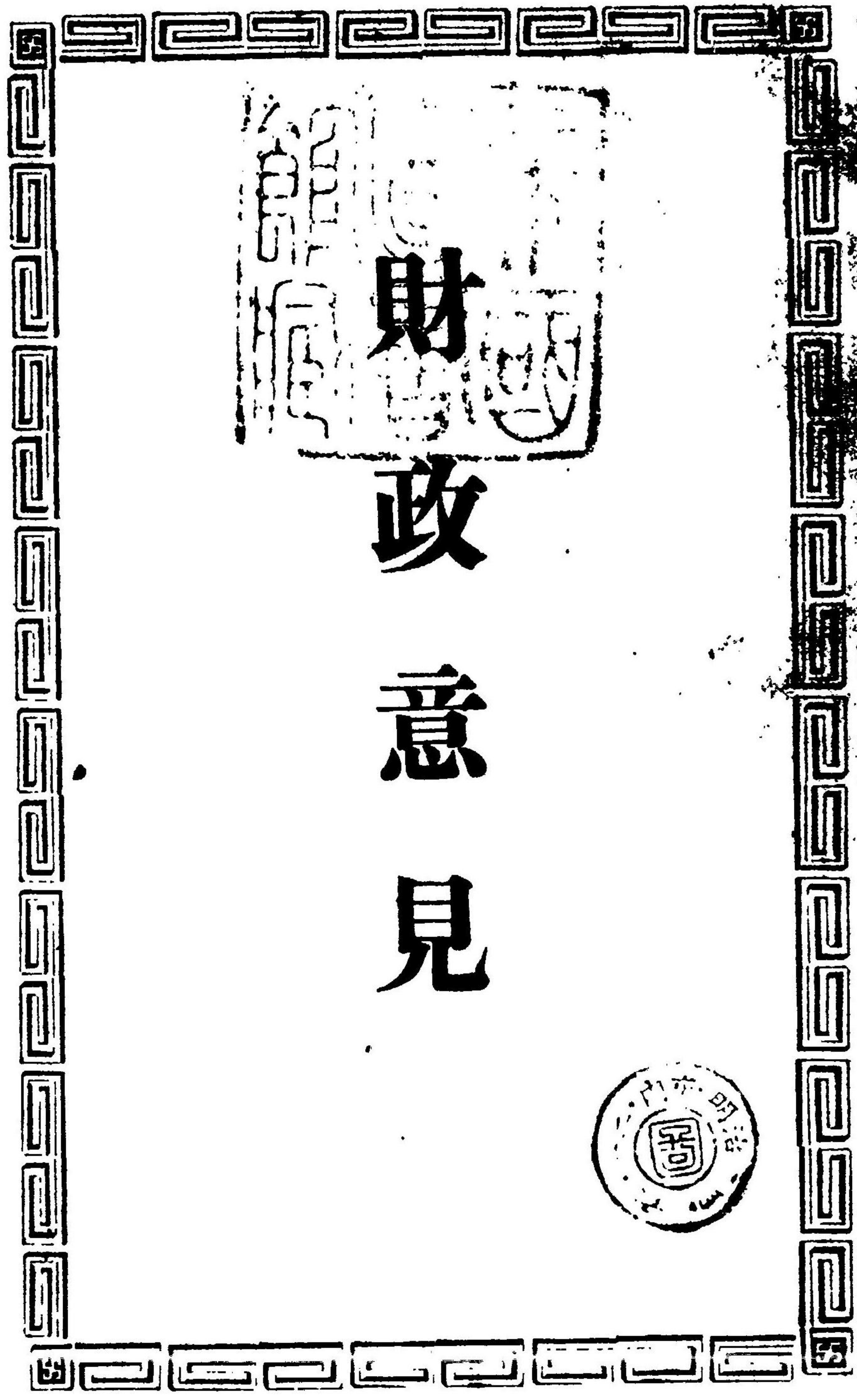


71-7



財政意見



# 財政意見

## 目次

總論	一頁
資本ノ供給	五頁
第一 內國零細資金ノ吸收	六頁
第二 外資輸入	八頁
第一 外債募集困難ノ事情	一〇頁
第二 外資輸入ニ依ル經濟及政治上ノ影響	一二頁
第三 外資ニ依ル事業ノ効果	二〇頁
通貨制度ノ改良	二九頁
第一 兌換券制度ノ改良	二九頁
第二 兌換券制改正及經濟救済ニ關スル辨妄	三八頁

第三 補助貨幣ノ改造	四三頁
輸出平準ノ方策	四七頁
第一 勤儉貯蓄	五一頁
第二 輸入ノ減少	五三頁
第三 輸出ノ増加	六四頁
財政整理ノ方針	六五頁
國庫財政ノ現況如何	六六頁
第一 稅源ノ整理及涵養	七三頁
第二 會計法規ノ改良	八〇頁
鐵道經濟策	八九頁
第一 鐵道ノ普及	九〇頁
第二 鐵道ノ整備	九七頁

第三 鐵道ノ統一	一〇〇頁
附言	一一五頁

# 財政意見

田 健 治 郎

## 総論

明治維新以來年ヲ重スル三十四年其間時ニ泰否アリ勢ニ消長ナキニ非スト  
 雖モ開國進取ノ國是則テ我帝國ヲ富強ノ域ニ進メ萬國ニ對峙シテ國光ヲ  
 發揚セントノ雄圖宏謨ハ何種ノ内閣タリ何様ノ時勢スリト雖トモ未タ曾テ  
 一日モ沮廢セス終始一貫遵奉繼承以テ今日ニ到リ内治外交百揆ノ政務總テ  
 皆此一大國是ヨリ胚胎發動シ駸々乎トシテ日々ニ改良革新ニ就ケリ其盛德  
 大業東西比テク曠古未タ曾テ有ラサル所誰カ此一大國是ニ對テ紛更ヲ試ミ  
 沮遏ヲ爲スコトヲ得ンヤ

然レ共維新ノ大業ハ今尙ホ進行途中ニ在リ未タ以テ其大成完結ヲ告ケズル  
 モノト謳歌スヘキノ時機ニ達セス試ニ我カ開國進取ノ國是ニ就キ政治經濟  
 ノ兩途ニ分別シテ之ヲ論センカ政治ニ關スル維新ノ功業ハ内治外交ニ

ヲ尙ホ幾多ノ經營ヲ要シ前程甚タ遼遠ナリト雖モ内治ニ在テハ幕府僭竊、封建割據、士農分業、庶民奴隸ノ未開時代ヨリ進テ王政復古、憲政樹立、四民平等、教育普及ノ開明時代トナリ外交ニ在テハ我帝國版圖内ニ外國兵駐屯シ外國郵便局設立セラレ治外法權ノ條約現存シ實際獨立國タルノ体面利益ヲ保持スル能ハサルノ憐ムヘキ悲ムヘキ半獨立國時代ヨリ進テ條約ヲ改正シ獨立國タルノ体面ヲ全フシ殊ニ近年外戰勝利ノ結果ニ依リ優ニ世界強國ノ列ニ入り東洋ニ於ケル最大優勢國トシテ雄ヲ東方ニ稱スルノ獨立國時代トナリタル其雄略偉業赫々タル成功實ニ青史上ニ光輝ヲ放ツモノト云フモ過當ニ非サルヘシ

政治上斯ル大成功ヲ遂ケシニ拘ハラズ翻テ經濟上ノ方面ニ就キ之ヲ觀察セハ今尙ホ憐ムヘク悲ムヘキ低度ノ位置ニ彷徨シ人ナシテ慚愧失望暑カラスシテ流汗背ニ洽キノ感ヲ抱カシムルヲ免レス經濟事業又幾多ノ進歩發達ナキニ非ス貨幣制度ノ統一、銀行會社ノ設立、各種洋式製造業ノ勃興、鐵道航海其他交通機關ノ設備等經濟界ノ体面ヲ改メ生産力ノ發達ヲ促シタル者

實ニ鮮少ナラス然レ共其成功ノ程度ハ之ヲ政治上成功ノ程度ニ對比シ尙ホ幾層ノ下位ニ在リ兩々相伴フノ好果ヲ觀ルニ到ラス今試ミニ兩者ノ差等ヲ現實的ニ形容セハ政治上ノ成功ハ兎ニ角之ヲ世界的ナリト云フヲ得ヘキモ經濟上ノ成功ハ僅カニ維新前三百ノ經濟區ニ分裂シタル我邦ヲ舉ケ打シテ日本ナル一經濟區ニ團集セシメタリト云フニ過キサレハ其成功ハ之ヲ日本的ナリト云ハサルヲ得ス由來本邦上流人士ノ素養ハ數百年來專ハラ禮義廉耻ニ重キヲ措キ貨殖算數ノ如キハ素町人ノ務ムヘキ卑劣ノ業務トシテ士君子ノ口ニスルヲ辱トスルノ慣習ニ養成セラレ鍛練セラレ來リタルヲ以テ上流世界經濟思想ノ缺乏セルモ亦深ク怪ムニ足ラサレトモ今ヤ政治上ノ關係一切世界的ト推移リ來リタル今日ニ於テ獨リ、經濟事情ヲ日本のニ局限セント欲スルハ恰モ年來ノ農家カ農業ヲ廢シテ都會ニ來リ現ニ商業ヲ開始シナカラ其商賣取引ノ方法ハ都會ノ商習慣ニ依ラスシテ依然農家生計ノ筆法ヲ墨守セント欲スルニ殊ナラス久シカラスシテ遂ニ破産ノ慘狀ヲ招クヘキバ理ノ尤モ睹易キモノナリ

果シテ然ラハ我邦日下官民一般一意專心勇往奮進孜孜務ムヘキノ最大急務ハ經濟上ノ大革新ニ在リ經濟ノ革新ナシテ政治的革新ト相伴ハシムルニ在リ世界的經濟ノ大方針ヲ定ムルニ在リ世界共通ノ經濟界ニ仲間入リスルニ在リ若シ不幸ニシテ經濟ノ革新ニシテ政治的革新ト相伴フ能ハサラシメンカ國力萎微シテ生産衰ヘ財源涸渴シテ給養繼カス陸ニ五十萬人ノ雄兵アリ海ニ二十萬噸ノ艦艦ヲ備フルアリトスルモ弱肉強食ノ吞噬世界、優勝劣敗ノ競争場裏ニ在テ果シテ何ノ効用カアル明將勇卒モ其力ヲ施スニ由ナク如何ニ機敏ナル外交家モ亦其智ヲ用フルニ由ナカラシ天下ノ形勢ニシテ果シテ斯ル境涯ニ推移セシメハ前ニ所謂赫々タル政治上ノ大成功モ全然其價値ヲ失ヒ經濟關係ヨリ遂ニ獨立國タルノ利益面目ヲ失墜スルニ到ラン故ニ予ハ茲ニ斷言ス國富テ而ル後兵強カルヘシ兵強フシテ而ル後外交利ナルヘシ外交利ニシテ而ル後我帝國ノ利益面目全カルヘク萬國ニ雄飛スルノ基礎初メテ確立スルヲ得ヘシ是レ維新宏謀ノ大主眼ニシテ開國進取ノ國是ノ大精神ナリト經濟革新ノ途如何請フ條項ヲ分テ左ニ之ヲ論辯セン

### 資本ノ供給

一國經濟ノ發達健全ナランコトヲ欲セハ先ツ生産力ノ増殖ヲ爲サ、ルヘカラス、生産力ノ増殖ヲ爲サント欲セハ先ツ交通運輸ノ機關ヲ整備セサルヘカラス、交通運輸ノ機關ヲ整備セント欲セハ先ツ之レカ設備ニ要スル資本ノ供給ヲ裕カニセサルヘカラス、是レ事物當然ノ順序ニシテ決シテ紊亂スヘカラサルノ原則ナリ若シ此順序ヲ誤ランカ獨リ勞シテ其功ヲ見サルノミナラス動モスレハ經濟上ノ混亂ヲ招キ禍害ヲ實業界ニ及ホシ終ニ恐慌的慘狀ニ陥ルコトナシトセス近時我邦經濟界究迫困頓ノ苦境ニ陥リタルヤ通貨ノ膨脹輸入ノ超過等其一大原因タルニ相違ナシト雖トモ資本ノ供給事業ノ設備ト相伴ハス則テ前述當然ノ順序ヲ錯置シタルカ如キ亦確カニ一大原因タラスンハアラス清國債金ノ仕拂ヲ受クルヤ俄然急劇ナル資本ノ増加ヲ來シ實際事業上必要以外ノ餘剩ヲ生シ之レカ爲メ民間事業家ナシテ徒ラニ起業熱ニ浮カサレ深ク利害ヲ商量スルノ慎重心ヲ缺キ一時事業ノ勃興ニ競奔

セシメ以テ今日ノ反動ヲ招キ大ニ資本ノ缺乏ヲ告ケ遂ニ事實有益有利ノ事業ヲモ相繼テ蹉跌破産ノ慘狀ニ陥ラシメタリ嚮ニ償金引取ノ際ニ當リ需用外資本膨脹ノ結果ニ對シ多少ノ注意ヲ缺キシハ事意思ノ及ハサルモノアリシヲ以テ今更追悔スルモ其甲斐アルヘカラストシテ之ヲ論セサルモ近年ニ到リ早キヲ趁フテ適當ナル資本供給ノ方法ヲ講シ事業ト資本トヲシテ常ニ畧ホ平衡ヲ得セシムルノ計ヲ爲サハ今日ノ如ク玉石共ニ燬クノ悲況ニ陥ラサルヘキヲ得タルナランニ前ニハ資本餘テ事業足ラサルニ顧ミス遽然資本ノ大膨脹ヲ爲シ後ニハ事業餘テ資本足ラサルヲ慮ラス毫モ資本供給ノ計畫ヲ爲サ、リシハ予カ窃カニ歎惜スル所ナリ

既往ノ蹉跌ハ追咎スルモ其詮ナカルヘシ將來如何ニシテ資本供給ノ途ヲ講スヘキヤ左ノ二途ノ外ニ出テサルヘシ

第一 内國零細資金ノ吸収

第二 外資輸入

第一 内國零細資金ノ吸収

内國資本ノ缺乏シテ内國公債ノ募集シ能ハサルハ軍事公債、整理公債ノ時價九拾圓以下ニ低下シアル現時ニ在テハ敢テ多言ヲ要セサル所ナリ唯民間下流社會ニ散布シタル零細ナル金員ニ對シテハ務テ吸收ノ方策ヲ講シ其逸散ヲ防止セサルヘカラス此事ノ忽諸ニ附シ去ルヘカラサルハ一ニハ金員ヲ細民ノ懷中ニ殘留セシムルハ徒ラニ奢侈ノ念ヲ生セシメ勤儉貯蓄ノ美風ヲ失墜セシメ其影響スル所物價ヲ騰貴シ輸入ヲ促スノ結果ヲ生スルノ虞アルト二ニハ資金ノ逸散ハ資本ノ缺乏ヲ來シ生産事業ノ發達ヲ阻害スルノ虞アルニ依ルモノナレハ決シテ等閑ニ附スヘカラス郵便貯金獎勵法ノ如キ勸業債券普及ノ如キ零細資金ノ吸収法トシテ最モ有効ナルモノトス殊ニ郵便貯金獎勵金附與ノ方法ノ如キハ當局者ニ於テ既ニ成案ノ存スルモノアリ本年ノ議會ニ於テ貴族院ノ否決スル所トナリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ然レ共今日ノ資本供給ハ到底此等小施設ノ能ク其需用ヲ充ス所ニ非サルハ多言ヲ要セサル所ナレハ今ノ計タル主トシテ外資輸入ノ方法ニ依ラサルヘカラス左ニ之ヲ論セン

## 第二 外資輸入

外資輸入ノ方法之ヲ左ノ二項ニ區別スルヲ要ス

## 甲 民間外資輸入

## 乙 政府外資輸入

(甲) 民間外資輸入ノ手段ハ頗ル多岐ニ渉ルヘシ試ニ其重要ナル者ヲ舉レハ

(イ) 商業製造鑛山銀行等内外人合資ノ營業ニ依ルモノ

(ロ) 内國ノ商會社ニシテ外國人ヨリ借入金ヲナシ又ハ延拂ノ約ヲ以

テ材料ヲ購入スルモノ

(ハ) 外國人ニシテ内國公債又ハ株券債券等ヲ購買スルニ依ルモノ

(ニ) 外國人ニ土地所有權ヲ許容シ又ハ鑛山ノ發掘ヲ許可セントスルモノ

以上數個ノ方法中(イ)(ロ)(ハ)三號ノ方法ハ實際既ニ多少實行セラレ居ルハ明白ナル事實ニシテ村井商會ノ烟草製造ニ於ケルインダーナシヨナル製油會社ノ石油事業ニ於ケル如キハ其最モ顯著ナルモノナリ其他借入金若ク

ハ延拂約定ノ如キモ今正ニ内外人間ニ於テ交渉中ニ係ルモノ蓋シ二三ニ止マラサルヘシ獨リ(ニ)號ナル土地所有權鑛山發掘權ノ問題ニ到テハ許否ノ世論頗ル激々タルニ拘ハラヌ未タ歸著スル所ヲ觀ス世界的經濟眼ヨリ之ヲ論セハ之ヲ許可スルニ於テ何等恐ルヘキ惡結果ヲ來スヘキ虞ナキヲ信スルノミナラス生産力發達上多少ノ効力アルヘキハ信シテ疑ハサル所ナリト雖モ其効果ノ顯ハル、ハ素ヨリ幾多ノ歲月ヲ要スルモノナルヲ以テ予ハ今日燃眉ノ急務ヲ論スルニ當リ暫ク之ヲ詳論スルコトヲ止メ他日ノ講究ニ讓ルヘシ之ヲ要スルニ民間外資輸入ノ手段ハ其方法ニシテ宜ヲ得ハ内外經濟調和ノ點ニ於テ極メテ好望ヲ有スヘキ性質ヲ備ブルモノナレハ政府ハ決シテ之ヲ妨ケサルノミナラス成ルヘク便宜ヲ與ヘ其成立ヲ遂ケシムルコトニ注意スヘキハ予カ切ニ希望スル所ナレ共此等ノ事ハ元來人民ノ自由行為ニ屬シ政權ヲ以テ其遂行ヲ必期スヘキ筋ニ非サルヲ以テ政治的經濟論トシテハ暫ク之ヲ論外ニ置キ專ハラ政府ニ於ケル外資輸入ノ得失ヲ講究セントス

(乙) 政府ニ於ケル外資輸入則テ外債募集ニ就テ解決スヘキ問題甚々多シ之



ナ大別セハ左ノ三項ニ分ルヘシ

- 第一 外債募集ノ困難
- 第二 外資輸入ニ依ル經濟及政治上ノ影響
- 第三 外債ニ依ル事業ノ効果

第一 外債募集ノ困難

此問題ニ付テハ當然左ノ諸點ヲ解決セサルヘカラス

- (イ) 日本政府ノ信用能ク外人ヲシテ其募債ニ應セシムルニ足ルヤ
- (ロ) 假リニ應募ノ見込アリトシテ其利率ハ非常ニ高歩ナラサルヤ
- (ハ) 既ニ募債シタル以上ハ其元利ハ當然正貨ヲ以テ之ヲ仕拂ハサルヘカラス能ク之ニ應スルノ準備アルヤ否ヤ

(イ) ナル信用論ニ就テハ予ハ寧口過去一月間我政府ノ動作殊ニ渡邊元藏相ノ發表セラレタル言動ニ對シ深ク遺憾ノ感ヲ抱カサルヲ得ス此間外國ニ傳播シタル日本政府財政ノ危機ナル報道ハ日本政府ノ信用ヲシテ其幾分ヲ外國市場ニ失墜セシメ少クトモ單ニ此一事ヲ以テ倫敦市場ニ於ケル我公債

ノ市價ヲシテ一磅以上ノ下落ヲ來サシメタルハ事實ノ覆フヘカラサル所ノモノトス然レ共倫敦市場ハ南阿事件發生以來英國政府軍資募集ノ頻繁ナル内外各種ノ公債大ニ低落シ外國債ノ募集ニ應スヘキ餘力ヲ存セサレハ素ヨリ募債ヲ試ムヘキ適當ノ市場ニ非ス單ニ倫敦市場ノ形況ヲ觀テ募集ノ餘地ナシトスルハ蓋シ大速了タルノ笑ヲ免レサルヘシ看ヨ紐育及里昂ノ市場ハ資本充溢シ利率概テ二朱臺ニ止マルニ非スヤ殊ニ紐育市場ノ如キ前ニハ獨逸ノ募債ニ應シ後ニハ英國ノ募債ニ應セリ日本政府如何ニ信用薄弱ナリトスルモ外人ヲシテ能ク我政府財政ノ實況則チ歲出ハ北清事件費ニ到ルマテ一二租稅ノ歲入ニ仰キ公債ノ募集ハ專ハラ鐵道其他生産的事業ニ投資スルモノニシテ國庫ノ財政ハ極メテ健全強固ナルノ事實ヲ諒知セシメハ一億三億ノ外債豈ニ募集スルニ難カラシヤ予ハ一億圓ノ募債ナレハ三ヶ月ヲ出テスシテ確實ナル結約ヲ得ヘキ正確ナル理由アルヲ信ス

(ロ) 既ニ募債ノ見込アリトスルモ其利率ハ無論五朱以下タラサルヘカラス現時外國市場ニ於テ利率最モ高シ(三朱半)ト稱セラル、倫敦市場ニ於テ

スヲ我五朱利付ナル軍事公債ハ現ニ百二十三磅則テ賣價(百二磅)以上ノ價格ヲ保テ居ルニ非スヤ獨リ四朱公債ノ七十七磅臺則テ賣價(九十磅)ニ對比シ非常ナル割安ノ位置ニ止マル所以ノモノハ他ニ下落スヘキ一種ノ事情アリシニ由ルナリ倫敦市場尙ホ然リ況ヤ轉シテ紐育里昂等資本充溢金利低落ノ市場ニ就キ其募集ヲ試マシメハ五朱以下ノ利率ヲ以テ能ク其目的ヲ達シ得ヘキハ毫モ疑ヲ存セサル所ナリ

(ハ) 外債ノ元利ハ正貨ニテ仕拂フヘキヤ素ヨリ論ヲ俟タス此論題ハ第三問題ナル外債ニ依テ起ルヘキ事業ノ效果如何ヲ解決スルニ非ツレハ決定スヘカラス要スルニ其事業ハ生産的ニシテ而カモ收益ヲ以テ元利ヲ償却シ得ルニ足ルノ目的確實ナルモノナレハ元利仕拂ニ就キ毫モ顧慮スヘキ點アルヲ見ス此問題ハ最も重要ニシテ且複雜ニ涉ルヲ以テ第三ナル本問題ニ讓リ之ヲ解決セントス

第二 外資輸入ニ依ル經濟及政治上ノ影響

此問題ニ就テハ當然左ノ諸點ヲ解決セサルヘカラス

- (イ) 外資輸入ノ爲メ急劇ナル通貨ノ膨脹ヲ來スノ虞ナキヤ
- (ロ) 通貨膨脹ノ爲メ起業熱ノ暴騰ヲ再演セシメ又ハ物價及勞銀ノ騰貴ヲ致シ再ヒ輸入超過ノ憂ヲ生スルコトナキヤ
- (ハ) 外債ノ増加ハ政治上外國ノ干涉ヲ招クノ虞ナキヤ
- (イ) 流通貨幣ノ伸縮ハ主トシテ經濟上自然ノ消長則テ生産力ノ盈虛輸入ノ増減ト相隨伴セサルヘカラス生産力ノ旺盛ナルヤ貿易上輸出ハ輸入ニ超過シ正貨隨テ流入シ通貨依テ以テ増加ス是レ則テ資本充實商賣繁昌、世ハ泰平ヲ謳歌スルノ時ナリ泰極マレハ否來ル資本充實商賣繁昌ノ極ハ起業熱トナリ物價勞銀ノ騰貴トナリ輸入日ニ加ハリテ輸出日ニ縮退シ輸入ノ超過トナリ正貨ノ濫出トナリ遂ニ資本ノ缺乏商業ノ衰頽トナル是レ則テ今日我々カ遭遇シツ、アル所ノ境遇ナリ一伸一縮一張一弛雁去燕來恰モ四季ノ順環スルカ如シ是レ之ヲ經濟上自然ノ消長ト云フ故ニ能ク此理ニ通スルモノハ泰時驕ラス節制駕御能ク其奔逸ヲ防キ輕舉浮薄情熱ニ任セ急激ノ膨脹ニ到ラサラシメ以テ否時ノ到來ヲ豫防ス治ニ居テ亂ヲ忘レサルノ謂ナリ否

時屈セス誘掖扶助能ク其沮喪ヲ遏メ自棄自暴其落膽ニ任セ玉石共ニ燬クノ悲境ニ陥ラサシメ以テ泰時ノ挽回ヲ促ス危ニ居テ命ヲ致スノ謂ナリ、味者察セス其得意ノ時ニ當ルヤ薪上油ヲ注キテ其暴炎ヲ助ケ其失意ノ時ニ及フヤ民ヲ溝壑ノ中ニ擠シ隨テ之ニ石ヲ投ス日清戰役以來爲政者ノ舉止或ハ此嫌ヲ犯スナキ乎予ハ窃カニ惑ナキ能ハス

予ハ今日經濟整理ノ策トシテ最モ熱心ニ外資輸入ヲ主張スルモノナリ外資輸入ニ非サレハ我カ經濟ヲ整理シ國家富強ノ基礎ヲ確立スルニ由ナシト確信スルモノナリ然トモ之ト同時ニ痛ク急激ナル通貨ノ膨脹ヲ排斥シ外資ニ依リ急激ナル通貨ノ膨脹ヲ來スハ直チニ輸入超過ノ主因トナリ隨テ正貨ノ濫出トナリ借入タル正貨ハ倏忽ノ間ニ外國ニ流出シ殘ス所ハ單ニ外債ノ負擔ノミトナリ年々歲々隨テ借入ルレハ隨テ流出多途ニ我邦ヲ外債重圍ノ中ニ陥ラシメ國家ヲ危殆ノ域ニ瀕セシムヘキ最モ忌ムヘク最モ懼ルヘキ政策トシテ極力反對スル所ノモノナリ看ヨ三億圓ヲ超ヘタル清國債金ハ假令其大半ハ軍艦及兵器製造ノ費用トシテ登初ヨリ外國支出ノ覺悟ヲ爲シ居タル

ニモセヨ四五年ヲ出スシテ概チ輸入超過ノ爲メ外國ニ流出シ若クハ爲替作  
用ヲ以テ外國ノ仕拂ニ充用セラレタルニ非スヤ三十年度ニ於ケル軍事公債  
四千三百萬圓外國市場ヘノ賣却、三十二年度英國市場ニ於ケル一千萬磅四  
朱利付公債ノ募集其結果皆ナ同一ノ運命ニ歸着セサルハナシ蓋シ輸入超過  
ノ原因ハ或ハ軍備ノ擴張ニ據リ或ハ官民事業ノ勃興ニ因リ或ハ人民生活程  
度ノ上進ニ依リ殊ニ貨幣制度改正ノ結果物價ノ比準激變ヲ來シタルニ依ル  
等其因テ來ル所素ヨリ一ナラス諸因相依リテ以テ二十九年以來頻年ノ大超  
過ヲ致シタルヤ疑ヒナシト雖モ通貨膨脹ノ一事亦大ニ之ヲ助長セシメタル  
ハ左ノ對照表ニ依リ之ヲ確認スルコトヲ得ヘシ

通貨及貿易對照表

年次	通貨金額	兌換券發行高	輸出超過	輸入超過	備考
二十二年	二二〇	七九	三	〇	
二十三年	二〇五	一〇二	〇	二五	
二十四年	二一〇	一一五	一六	〇	

年次	通貨金額	兌換券發行高	輸出超過	輸入超過	備考
二十五年	二二六	一一五	一九	〇	
二十六年	二三八	一四八	一	〇	
二十七年	二四七	一四九	〇	四	
以上六ヶ年	均平 (二二二)	均平 (二一九)	計 三九	計 二九	差引輸出超過 一〇
二十八年	二八二	一八〇	六	〇	
二十九年	三〇〇	一九八	〇	五三	
三十年	三三〇	二二六	〇	五六	(金貨制度施行)
三十一年	二八五	一九七	〇	一一	
三十二年	三三七	二五〇	〇	五	
三十三年	二八五	一九四	〇	八三	
以上六ヶ年	均平 (三〇三)	均平 (二〇七)	計 六	計 三〇八	差引輸入超過 三〇二

參考 三十年代金貨制度施行以前ノ貨幣ハ之ヲ金貨相當價ニ換算スルヲ至當トスルノ說アレ共予ハ此換算說ニ依リ通貨ヲ増加スルハ直接

輸入増加ノ一因タルヘキモノト認ムルヲ以テ仍ホ舊貨幣額ヲ掲出ス

二十八年後ニ於ケル六ヶ年ノ兌換券發行平均額ハ二十七年前ニ於ケル六ヶ年ノ平均額ニ對比シ凡ソ七割半ヲ増加シ而シテ前六ヶ年ニ於ケル貿易上ノ關係ハ差引壹千萬圓ノ輸出超過タルニ反シ後六ヶ年ニ於テハ參億貳百萬圓ノ輸入超過トナリ殆ント日清戰役ニ依テ獲タル償金ノ八割ヲ失フコトトナレリ是レ通貨ノ膨脹ハ輸入超過ノ一因ナリト斷定スルノ謬言ニアラスト信スル所以ナリ

既ニ然リ今後外債ヲ起シ正貨ヲ輸入スルノ場合ニ於テハ之ヲ貨幣トシテ我市場ニ散スルト同時ニ凡ソ同額ノ兌換券ヲ收縮シ流通貨幣ノ總額ヲシテ常ニ平準ノ位置ニ居ラシメ外資輸入ノ爲メ急激ナル通貨ノ膨脹ヲ來サシムヘカラサルハ財政當局者ノ須臾モ忽ニスヘカラサル最大要件ナリトス予ヲシテ腹藏ナク思フ所ヲ言ハシメハ清國債金輸入ノトキ又ハ四千參百萬圓公債賣却ノトキ若クハ壹千萬磅外債募集ノ時ニ當リ正貨ノ流入ト相伴ヒ少クト

モ其員額ニ相當セル兌換券ヲ收縮スルノ處置ヲ採ラシメハ金融逼迫ノ歎聲ヲ聞クハ或ハ幾時ヲ早ムヘキモ輸入超過ノ趨勢ハ必ス幾分カ其鋒ヲ鈍フセシナラン是レ其來ル速ナレハ其禍小ナルモノニシテ或ハ今日ノ如キ劇甚ナル慘狀ヲ觀ルニ到ラザリシナラン而ルニ當局者ノ處置ハ茲ニ出テサルノミナラス却テ三十二年度ニ於テ兌換銀行券條例ヲ改正シ保證準備ノ制限ヲ昇セ八千萬圓ヲ壹億貳千萬圓ト改正シ正シク四千萬圓ノ通貨膨脹ヲ來スヘキ處置ヲ施シタルハ予カ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ

兌換券制度改正ノ方法ニ就テハ別ニ一私見ヲ有セリト雖トモ本問題ノ場合ニ於テハ外資輸入ノ爲メ通貨ノ膨脹ヲ來スハ經濟紊亂ノ虞アルヲ以テ斷シテ之ヲ避ケサルヘカラサルヲ論斷スルヲ以テ足レリト信スルカ故ニ兌換券論ハ後章別ニ論スル所アラント欲ス

(ロ) 前項ノ問題ニ於テ既ニ外資輸入ノ爲メ通貨膨脹ノ處置ヲ採ラサルコトヲ決定セハ其結果タルヘキ起業熱ノ暴騰、物價券銀ノ騰貴等ヲ招致スヘキノ虞ナキハ多辯ヲ俟タスジテ明白ナレハ茲ニ之ヲ覆説細論スルノ必要

ナント信ス

(ハ) 外債ノ爲メ外國ノ干涉ヲ招クノ虞アルハ其起債ノ方法政治的手段ヲ用フルニ依テ生起スルモノト(第一種)登初起債ノ方法ハ毫モ政治的手段ヲ用ヒサルモ負債國カ辨濟ノ義務ヲ履行セサルカ爲メ債權者ノ屬スル外國政府カ自己人民ノ權利ヲ保護スル爲メ生起スルト(第二種)ノ二種類アリ第一種ノ事例ハ近年清國政府カ我邦ニ拂渡スヘキ償金公債募集ノ爲メ露國政府ノ保證ヲ受ケタルカ如キ若クハ韓國政府カ本邦若クハ他邦ヨリ外交上ノ意味ヲ含ミタル借款ヲ爲スカ如キ恰モ此種類ニ屬セリ我邦起ス所ノ外債ハ斯ル不祥ナル政治的起債ニ非スシテ公然外國市場ニ於テ商人ヲ相手トシ「算盤ヅク」ニ協定スル純然タル商事關係ノ起債ナレハ毫末モ政治上外國政府ノ關係スヘキ懸念ナシ第二種ノ事例ハ埃及政府財政紊亂ノ爲メ英國政府ヨリ自己臣民ノ債權保護ヲ口實トシ財務監督者ヲ置クカ如キ是ナリ是レ貧弱國カ辨濟義務ヲ怠リタルヨリ生スル現象ナレハ國運日ニ隆盛ニシテ生産日ニ發達セル我邦ト對比スルノ不倫タルハ亦言ヲ俟タス要スルニ我邦起債ノ

目的ニシテ經常費ノ不足ヲ補フ爲メナルカ若クハ不生産的事業ヲ進行スルカ爲メナリシメハ假令ヘ其辨償ノ見込確的ナリトスルモ予ハ飽マテ之ニ反對スルヲ辞セサルモノナレ共其費途タルヤ鐵道ノ如キ生産的急要ノ事業ニシテ而カモ因テ生スル利益ヲ以テ其債務ヲ償完スルノ見込確實ナルモノニ就テハ本問題ノ如キハ全然無益ノ杞憂ニ過キサルモノト斷言スルヲ憚ラサルナリ生産的起業ノ得失ニ就テハ別ニ項ヲ改メ詳論スル所アラント欲ス

### 第三 外債ニ依ル事業ノ効果

外債ニ依テ起ルヘキ事業ハ必ス生産的ナラサルヘカラヌ予ハ前ニ一國經濟ノ發達健全ナランコトヲ欲セハ先ツ生産力ノ増殖ヲ爲サ、ルヘカラス生産力ノ増殖ヲ爲サント欲セハ先ツ交通運輸ノ機關ヲ整備セサルヘカラサルヲ論セリ鐵道、郵便、電信、電話、ノ事業ハ國家交通ノ機關トシテ大イニ生産力ノ増殖ヲ促シ且業務夫レ自身カ其収利ヲ以テ其費用ヲ償ヒ得ルノミナラス途ニ其純益ヲ以テ全ク起業資本ノ元利ヲ償却シ得ル性質ヲ有スル國家事業トシテ最モ有利有益ナルモノナレハ苟モ生産力ノ増殖ヲ致シ國家ヲ富

國強兵ノ域ニ進メント欲セハ交通機關ノ整備ヲ捨テ他ニ方策アルヘカラス此四ツノ者國家交通機關トシテ共ニ其發達改善ヲ圖ラサルヘカラサルハ其間別ニ軒輊スル所ナシト雖モ郵便電信ノ二者ハ其設備略ホ普及シ且其起業資本ヲ要スルコト比較的多大ナラサルヲ以テ暫ク之ヲ論外ニ讓リ予ハ先ツ我邦ノ實狀ニ照シ現今最モ急施ヲ要スル鐵道事業ニ就キ聊カ卑見ヲ吐露シ次テ電話事業ニ及ホサント欲ス

鐵道事業ノ富國強兵ヲ致スノ最要機關タルハ多クノ論辯ヲ要セスシテ明瞭ナルヤ論ヲ俟タスト雖トモ予ハ一二ノ事例ヲ掲ケ以テ予カ論據ニ資セント欲ス普國ノ佛國ト戦ヒ大勝ヲ博スルヤ五十億法ノ償金ハ年ヲ超ヘスシテ拂渡サレ之レカ爲メ急劇ナル資本ノ膨脹ヲ招キ起業熱ノ暴騰ヲ來シ數年ナラズシテ事業ト資本トノ平準ヲ失ヒ金融塞迫經濟界ノ恐慌ヲ招キタルハ酷ク我邦日清戰役後今日ニ到ル迄ノ情態ニ類似セルモノアリ然ルニ普國政府ハ此等ノ小挫折ニ屈託セス内資ノ給セサル所ハ之ヲ外資ニ仰キ一意奮進鐵道ノ整備ニ從事シ或ハ新線ヲ敷設シ或ハ私設線ヲ買収スル等三十年一日ノ如

ク以テ現今ニ到リ資本ヲ投スルコト五拾五億馬克公債ヲ起スコト四拾五億馬克國有鐵道延長參萬百九拾壹哩ノ多キニ達セリ而シテ其結果ハ果シテ如何ナル者ソ請フ試ニ左ノ數字ニ注目セヨ

一千九百年三月ニ終ル一會計年度ニ於ケル普魯西國ノ歲計

歲入 貳拾參億貳千六百參拾貳馬克

歲出 貳拾參億貳千六百參拾貳馬克

歲入出過不足ナシ

鐵道收入 拾貳億八千五百九拾六萬貳千五百拾九馬克

鐵道歲出 七億五千四百九拾五萬參千百拾壹馬克

差引純益 五億參千百萬九千四百八馬克

國債總額 六拾五億五百六拾五萬馬克

一ヶ年利子 貳億參千七百九拾五萬馬克

但利率三朱乃至三朱半

右ノ數字ニ就キ第一ニ注意スヘキハ鐵道收入ノ國庫歲入ノ過半ヲ占ムルコ

ト(國庫歲入總高貳拾參億貳千萬馬克ニ對スル鐵道收入拾貳億八千馬克)及ヒ鐵道歲出ノ國庫歲出ノ三分一ニ及ハサルコト(國庫歲出總高貳拾參億貳千萬馬克ニ對スル鐵道歲出七億五千馬克)是ナリ第二ニ注意スヘキハ鐵道純益ノ全國債ノ利子ヲ拂フテ尙ホ參億馬克ノ餘剩ヲ生スルコト(鐵道純益五億參千萬馬克ニ對スル全國債利子貳億參千萬馬克)是ナリ要スルニ普國國庫ノ歲計ハ鐵道純益ヲ以テ其ノ四分ノ一ヲ支ヘ何等ノ稅源タリトモ一種ノ稅目ニシテ能ク鐵道純益ノ一半ニモ企テ及フモノナキヲ觀レハ普國鐵道政略ノ如何ニ果斷ニシテ其成功ノ如何ニ偉大ナルヤヲ推知スルニ難カラズ豈ニ驚歎セサルヘケンヤ

然レ共是レ決シテ驚歎スヘキ奇事ニ非ス我邦官設鐵道事業ノ有利ナル毫モ普國官有鐵道ノ事實ニ讓ラサルナリ請フ左ノ數字ニ注目セヨ

明治三十二年度官設鐵道歲計

鐵道總資本八千七百貳拾萬千五百六拾壹圓

內 譯

開業線資本 七千八萬八千五百拾四圓  
 未開業線資本 千七百拾壹萬參千四拾六圓  
 收入總額 千五百貳拾八萬七千參百七拾六圓  
 國庫納純益 六百九拾萬千六百五拾八圓  
 補充費純益 參拾壹萬八千八百拾八圓

純益計七百貳拾貳萬四百七拾六圓

右ノ計數ニ依レハ開業線路ノ資本ニ對スル純益合計ノ利益率ハ一割〇三厘ニシテ補充費ニ充テタル高ヲ除キ去ルモ國庫ハ尙ホ資本ニ對シ八朱三厘ノ純益ヲ收入セルニ非スヤ普國鐵道純益ノ九朱内外ニ在ルモノト其比例甚タ相近似セリ既ニ然リ我邦鐵道經濟ノ極メテ有利有望ナルハ恰モ普國鐵道經濟ノ有利有望ナルト何等殊ナル所ナシ獨リ異ナル所ノモノハ彼ニ在テハ政策進行上ニ於ケル自信力甚タ強ク中途多少ノ障害ニ遭遇スルモ毫モ挫折沮喪セス勇往進前途ニ偉大ナル成功ヲ收メ我ニ在テハ一時進取的政策ヲ採ルアルモ自信力極メテ薄弱ナルヲ以テ中途經濟界ノ小頓挫ニ遭遇セハ嚮ニ鐵

道擴張ノ急ヲ大呼セシモノ忽ナニシテ意氣沮喪青天白日抗然トシテ官業中止ノ說ヲ唱ヘ半成ノ鐵道ヲ舉ケテ之ヲ草萊ノ中ニ委棄セントス東西物質ヲ殊ニセス日本ノ鐵道ハ尙ホ獨逸ノ鐵道ノ如シ然ルニ勇怯智愚ノ懸隔ニ到テハ其相距ルコト萬里沓ナラス日本人タルモノ豈ニ愧死セサルヲ得ンヤ普國ノ勃興スルヤ爾來年ヲ經ルコト三十餘年恰モ我カ維新ノ初時ニ當レリ而シテ其進步ノ迅カナル國運ノ隆ナル兵力ハ以テ歐州ニ覇タルニ足リ生産力ハ將ニ英佛ヲ凌駕セントスルノ概アリ是レ何ヲ以テ然ルヤ物質上ニ於テハ主トシテ鐵道政策ノ偉功ヲ奏シタルニ外ナラス獨逸ノ地歐州中原ニ於テハ比較的地味悪ク人民貧ナリシニ拘ハラズ大イニ運輸交通ノ便ヲ開キ依テ以テ工業製造ノ業ヲ獎勵誘掖シ遂ニ以テ今日ノ盛アルヲ致ス鐵道ノ生産力ヲ誘起スルヤ此ノ如ク顯著ナリ然ルニ國ヲ富サンコトヲ欲シテ鐵道ノ經營ヲ怠ルハ恰モ飢ヲ醫センコトヲ欲シテ食ヲ絶ツニ異ナラス何ソ思ハサルノ甚シキヤ

予ハ我邦鐵道前途ノ經營ニ關シ數理ヲ明瞭ナラシムル爲メ平易ナル計算ヲ



掲ケ以テ外債ニ依リ鐵道ヲ起スノ毫モ危險ノ虞ナキノ事實ヲ證明セントス  
 現在官設鐵道營業ノ實況ニ照セハ其原資タル公債ハ概テ五朱ノ割合ヲ以テ  
 募集セラレ而シテ其純益ハ資本ニ對シ現ニ一割強ヲ收入スルヲ以テ此實例  
 ニ依テ計算ヲ試ムルニ壹億圓ノ外資ヲ借入レ之ニ對シ年々一割ノ純益ヲ収  
 メ其中ヨリ五朱ノ利子ヲ拂ヒ殘金ヲ以テ年々元金ヲ償却スルトセハ十五ケ  
 年ニシテ獲ル所ノ純益壹億五千萬圓トナリ内元金償却壹億圓利子仕拂四千  
 貳百拾萬餘圓則テ元利全額皆濟ノ上尙ホ七百八拾九萬圓餘ノ餘剩金ヲ得第  
 十六年目ヨリハ永久毎年壹千萬圓ノ純利ヲ國庫ニ收入スルヲ得ルノ計算ト  
 ナル尙ホ一步ヲ退テ鐵道純益ヲ八朱ニ止マルモノトシ借入利子ヲ六朱ニ上  
 ルモノト假想スルモ第二十四年ニ於テ元利皆濟ノ上尙ホ百六拾萬圓餘ノ過  
 剩ヲ生スルノ計算トナル

電話事業ニ就テハ世間一種ノ論者アリテ或ハ電話ノ不急ヲ説キ或ハ電話民  
 有論ヲ説クモノアリト傳聞スレ共是レ畢竟事業ノ性質ト効用トヲ了知セサ  
 ルノ誤解ニ原クモノナレハ深ク諒察スルノ要ナキノミナラス論旨多岐ニ涉

ルノ嫌アルヲ以テ暫ク之ヲ論外ニ附シ茲ニハ唯簡單ニ利益ノ確實ナル要點  
 ナ論證スヘシ請フ左ノ數字ヲ一見セヨ

明治三十三年度電話事業歲計

電話總資本 壹千七拾九萬九千圓

收入總額 百九拾六萬圓

維持費 百拾四萬參千圓

純益 八拾壹萬七千圓

右ノ計數ニ依レハ資本ニ對スル純益ノ割合ハ七朱半強ニ當ルヲ以テ前述鐵  
 道ノ例ニ依リ純益ヲ以テ元利償却ノ方法ヲ行フトキハ十七ケ年ニシテ元利  
 全ク償却シ盡シ尙ホ九萬參千圓餘ノ餘剩金ヲ存シ第十八年目ヨリハ毎年  
 百參拾貳萬圓餘ノ純利ヲ収得スルノ計算トナル若シ現今普通ニ歐米各國ニ  
 採用セラレタル通話度數料金ヲ基礎トセル料金制度ヲ實行スルトセハ尙ホ  
 幾多ノ利益ヲ增加スルヲ以テ十ケ年ニシテ元利全ク償却シ盡シテ尙ホ貳萬  
 四千餘圓ノ剩餘ヲ生シ爾後毎年百參拾萬圓ノ純利ヲ收入スルノ計算トナ

ル  
 鐵道及ヒ電話事業ノ經營ニシテ其宜ヲ失ハサランカ獨立獨行厘毫モ國庫ノ補助ヲ假ラスシテ業務夫レ自身ノ力ニ依リ能ク公債元利ノ償却ヲ遂ケ結局ニ到テハ普國ノ實例カ明示スルカ如ク遂ニ重要ナル國庫ノ財源トナリ國庫ヲシテ租稅以外ニ多大ノ收入ヲ得セシムルニ到ルヘキハ毫モ疑ヲ存セサル所ナリ矧ヤ鐵道ノ如キハ其及フ所土地拓ケ物産興リ製造鑛業農桑山林等百般ノ業務皆ナ其便ヲ利シテ興起セサルハナシ其國利ヲ起シ民福ヲ増スノ利益ハ容易ク計數ヲ擧ケテ證明シ難シト雖トモ鐵道營業直接ノ收益ニ比シ數倍ノ多キニ登ルヘキハ少シク運輸ノ業務ニ通スルモノ、齊ク確認スル所ナリ故ニ曰ク鐵道事業ハ富國強兵ヲ致スノ最要機關ナリト豈ニ務メサルヘケンヤ  
 本問題ナル外資ニ依ル事業ノ效果ノ有益ニシテ且偉大ナルハ前論略其要ヲ盡セリト信ス鐵道整備ノ計畫ニ就テハ更ニ詳論セサルヲ得サルモノアリ議論ノ錯綜ヲ避クルカ爲メ別ニ端緒ヲ改メテ論スル所アラント欲ス

## 通貨制度ノ改良

### 第一 兌換券制度ノ改良

予ハ既ニ外資輸入ノ爲メ急劇ナル通貨ノ膨脹ヲ來スハ我カ經濟界ニ最モ恐ルヘキ結果ヲ生スルノ虞アルヲ以テ正貨輸入ノ場合ニ於テハ同時ニ我カ兌換券ヲ收縮シ通貨ヲシテ常ニ平準ノ位置ヲ保タシムルノ必要ヲ痛論セリ然レ共是レ單ニ外資輸入ナル一時應急ノ手段ニ對スル處置トシテ之ヲ希望スルニ非ス現行ノ兌換券制度其物ニ對シ根本的ノ改良ヲ加フルニ非サレハ幾度正貨ヲ輸入スルモ乍ナニシテ流出シ其極遂ニ不換紙幣タルノ大害ヲ生起スヘキノ虞アルヲ以テ兌換券ノ制度ヲ改正シ我カ經濟ノ基礎ヲシテ常ニ鞏固ノ位置ニ在ラシメンコトヲ主張スルモノナリ  
 初メ本邦兌換券ノ制度ヲ創始スルヤ當局者ハ汎ク歐州各國ニ實行セル兌換券制度ノ利害得失ヲ調査シ英國及佛國等基礎ヲ正貨準備制ニ置クノ極メテ確實鞏固ナルヲ認メ此方法ヲ採用センコトヲ希望セシモ如何セン當時我邦

現在ノ正貨甚タ僅少ニシテ到底正貨準備制ノ實行シ難キヲ詮メ遂ニ白耳義國ノ制ニ倣ヒ大イニ保証準備ノ限域ヲ擴張シ制限外發行ノ變則手段サヘモ採用セシニ到リシト聞ケリ是レ洵トニ止テ得サルノ處置ナリシナラン兌換券制實施ノ後凡ソ十年間ハ經濟上非常ノ變動ヲ生スヘキ大事件生起セザリシヲ以テ幸ニ小康ヲ保テタリト雖トモ一日日清戰役ノ起ルヤ之レカ爲メ内外貿易上ノ變動ヲ來シ爾後引續キ三億六千萬圓償金ノ獲得、四千萬餘圓公債ノ賣却、壹億圓外債ノ募集等僅々四五年ノ間ニ於テ殆ント五億圓ノ外資ヲ入ル、ノ事情ヲ生シタレハ此場合ニ於テ前ニ予カ論セシ如ク正貨輸入ノ機會ヲ利用シ金貨本位ノ實施ニ件ヒ同時ニ兌換券ノ制度ヲ改正シ基礎ヲ正貨準備ノ制ニ置キ尙ホ一步進シテ硬貨流通ノ地歩ヲ作りシナラハ一方ニハ幣制改良ノ目的ヲ達シ永遠我金貨制度ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ他方ニハ輸出ノ權衡ヲ維持シ正貨濫出ノ弊ヲ豫防シ實ニ一舉兩得ノ策ナリシナランニ惜ヒ哉計茲ニ出テサルノミナラス却テ保證準備ノ制限ヲ擴張シタルカ爲メ益經濟上ノ波動ヲ強メ右手ニ正貨ヲ輸入スレハ左手ニ貿易上ノ輸入超過

トナリテ之ヲ濫出シ惡貨ハ良貨ヲ驅逐ストノ經濟上ノ原則ハ少シノ猶豫モナク著々事實ニ發現シ遂ニ今日ノ如ク世人ヲシテ金貨制度ノ基礎ヲ危ミ不換紙幣ノ悲境ニ陥ルナキヤヲ疑懼セシムルニ到リシナリ予ハ本邦兌換制度ノ我カ經濟事情ニ適合セサルノ事實ヲ證明セン爲メ歐州數國ニ於ケル經濟的數字ヲ掲ケ以テ我邦ノ事情ニ對照セント欲ス

日 本 三十二年度

人 口	四千參百七拾六萬人
國庫歲入	貳億五千四百貳拾五萬圓
輸出入額	四億參千五百參拾參萬圓
發行紙幣	貳億五千五百六拾六萬圓 (政府及銀行紙幣ヲ含ム)
正貨準備	八千貳百拾四萬圓
正貨準備ハ紙幣ノ三割五分五厘ニ當リ	
發行紙幣ハ略歲入額ニ均ク	
同	輸出入額ノ五割八分七厘ニ當ル

千八百九十九年度

人 口 四千五拾五萬人

國庫歲入 壹億八百參拾參萬六千磅

輸出入額 八億千四百七拾五萬五千磅

發行紙幣 四千四百七拾萬七千磅

正貨準備 貳千七百九拾萬七千磅

正貨準備ハ紙幣ノ六割二分四厘ニ當リ

發行紙幣ハ歲入ノ四割一分ニ當リ

同 輸出入額ノ五分五厘ニ當ル

佛 國

人 口 三千八百五拾萬人

國庫歲入 參拾五億貳千參百拾參萬法

輸出入額 百貳億五千六百拾萬法

發行紙幣 參拾九億八千參百四拾九萬法

正貨準備 參拾億參千七拾貳萬法

正貨準備ハ紙幣ノ七割六分ニ當リ

發行紙幣ハ歲入ノ十一割三分ニ當リ

同 輸出入額ノ三割八分八厘ニ當ル

白 耳 義

人 口 六百六拾六萬人

國庫歲入 四億五千貳百貳拾四萬法

輸出入額 六拾貳億九千八百九拾參萬法

發行紙幣 五億四千參百參拾五萬法

正貨準備 壹億壹千貳百六拾六萬法

正貨準備ハ紙幣ノ二割〇七厘ニ當リ

發行紙幣ハ歲入ノ十二割ニ當リ

同 輸出入額ノ八分六厘ニ當ル

右ノ數字ニ就テ第一ニ注意スヘキハ日本ノ正貨準備ハ模範ヲ白耳義ニ採リ

タルカ故ニ之ヲ英佛ニ比シ特ニ其割合ノ寡少ナルコト第二ニ注意スヘキハ日本ノ紙幣發行額ハ之ヲ輸出入額ニ比較シ其割合絶對的ニ多大ニシテ白耳義ノ割合ニ比シ殆ント八倍ニ當リ英國ノ割合ニ比シ十倍ニ當ルコト是ナリ蓋シ白耳義國正貨準備ノ特ニ僅少ニシテ而シテ能ク紙幣ノ信用ヲ維持スル所以ノモノハ其生産力ノ旺盛ナル人口比例上遙カニ英佛ヲ凌駕スルノ勢ヲ保テ正貨常ニ國中ニ潤澤ナルノ實力ヲ有スルカ故ナリ然ルニ我邦ニ在テハ其生産力ヲ代表スヘキ貿易高ハ僅々白耳義ノ六分一、一層適切トル比較則テ人口比例上ヨリ之ヲ推算セハ僅々白耳義ノ三十八分一二過キサルノ微力ヲ以テ直々ニ其兌換券制度ヲ摸倣シ以テ蹉跌ナカラシムコトヲ期スルハ抑モ自カラ知ラサルモノト云ハサルヘカラス

正貨準備割合ノ白耳義國ニ摸倣スヘカラサル既ニ斯ノ如ク而シテ兌換券發行高ノ國力ニ相應セサル點モ亦大イニ講究ヲ勉メサルヘカラス試ミニ英國ノ例ニ依テ之ヲ推論センニ若シモ輸出入額及國庫歳入額ヲ以テ其國ノ富力及經濟的實勢ヲ標示スルノ價值ヲ有スルモノトセハ日本ノ輸出入額ハ殆ン

ト英國ノ二十分一ナルカ故ニ紙幣モ亦其二十分一（凡ソ貳千貳百萬圓）タルヘシ日本ノ歳入高ハ英國ノ四分一ナルカ故ニ紙幣モ亦其四分一（凡ソ壹億壹千貳百萬圓）タルヘシ二者ヲ併セテ之ヲ折衷セハ我邦紙幣適度ノ制限ハ凡ソ六千七百萬圓ナラサルヘカラストノ結論ヲ生スヘシ

爰ニ英國ト我邦トノ比較上一顧セサルヘカラサルモノアリ信用ノ程度非常ニ懸隔セルコト是ナリ去ル明治二十九年東京交換所ニ於ケル手形ノ交換高ハ未タ五億圓ニ登ラサルニ倫敦ニ於ケル千八百九十三年ノ交換高ハ凡ソ七百四十七億圓ニシテ殆ント百五十倍ニ當レリ爾後我國手形取引ノ數額漸ク増進シ昨三十三年ノ如キハ東京ノ交換高拾四億圓ニ達シタレトモ尙ホ倫敦交換高ノ五十分一二過キス手形ノ流通盛ナレハ商業上通貨ノ需用減少シ隨テ通貨ノ額ヲ收縮シ得ヘシト雖トモ我邦ニ於テハ手形ノ信用甚タ乏キヲ以テ勢ヒ通貨ヲ増發シ手形ノ缺位ヲ補充セサルヘカラサルノ必要アリ然レ共茲ニ所謂通貨ナル者ハ單ニ紙幣ヲ指稱スルモノニ非スシテ正貨ヲモ併セ稱シタルモノナレハ紙幣發行額ノ割合ハ主トシテ正貨流通額トノ權衡ヲ持セ

サルヘカラス故ニ我邦兌換券適當ノ程度ノ六七千萬圓ノ間ニ在リトノ推定ハ毫モ之レカ爲メ影響スル所ナキヲ信ス  
既ニ六七千萬圓ヲ以テ我邦ニ於ケル兌換券適度ノ制限トセハ現在流通シツツアル平均貳億圓内外ノ兌換券ハ如何ニ之ヲ整理スヘキヤ此問題ヲ決定セント欲セハ先ツ大体上ニ於テ現今我邦ニ必需ナル通貨ノ員額ヲ概定セサルヘカラス今假リニ補助貨ヲ除キ貳億圓ヲ以テ必要缺クヘカラサル通貨額ト概定セハ左ノ如キ計算ヲ生スヘシ

通貨貳億圓

七千萬圓 兌換券

此正貨準備七割ト假定スレハ正貨四千九百萬圓ヲ貯藏スルヲ要ス殘額貳千百萬圓ハ保證準備トス

壹億參千萬圓 流通正貨

此計算ハ予カ概定ニ過キツルハ實際施行ノ場合ニ於テハ充分慎重ナル調査

ヲ遂ケ精確ナル見込ヲ立テルヘカラサルハ論ヲ俟スト雖トモ假リニ此計算ニ依リ推案スレハ流通正貨ト準備正貨トナ併セ壹億七千九百萬圓ノ正貨ヲ要ス其中ヨリ現ニ日本銀行ニ貯藏スル凡ソ六千萬圓ノ正貨ヲ引去レハ不足スル所凡ソ壹億貳千萬圓トナル外債ヲ以テ正貨ヲ借入レ之ヲ我貨幣ニ改鑄シ壹億參千萬圓ノ紙幣ヲ引換ヘ一切之ヲ消却シ制限外發行ノ如キハ國家非常ノ場合ノ外斷シテ之ヲ禁絶スヘシト云フニ外ナラス

紙幣消却ノ場合ニ於テハ予ハ寧ロ五圓紙幣壹圓紙幣ノ二種ヲ全廢スルノ希望ヲ有セリ英國ノ紙幣ハ其最小額五磅（五拾圓）ナレ共未ダ曾テ甚シキ不便ヲ感セシヲ聞カス小額紙幣廢止ノ結果ハ確カニ二個ノ實益ヲ生スヘシ硬貨ノ普及ト補助貨ノ増發是ナリ此場合ニ於テハ大塊ノ銀貨携帯ノ不便ヲ醫スル爲メ是非共補助貨ヲ改造シ其量ヲ半減シ且之ヲ增發スルノ必要ヲ生スヘシ此問題ニ關シテハ別ニ項ヲ改メテ之ヲ論セン

兌換券收縮ノ實行ハ相當ノ時日間徐々ニ之ヲ履行シ急激ノ處置ヲ爲スヘカラス事實ニ於テモ外債ノ募集、貨幣ノ改鑄、補助貨ノ改造等處分ヲ要スル

コト少カラサルヲ以テ自然相當ノ時日ヲ要スルナラン此場合ニ於テ注意スヘキハ日本銀行ノ有スル凡ソ四千萬圓ノ公債證書ハ正貨ヲ以テ之ヲ買上ケ兌換券消却ノ資金ニ充テシメサルヘカラス其他此等ニ類スル幾多必要ノ處置ヲ爲サ、ルヘカラサルハ論ヲ俟タサル所ナルヘシ

第二 兌換券制改正及經濟救済ニ關スル辯妄

論者或ハ云ハン兌換券減縮ノ事、償金取寄セ又ハ外資輸入ノ場合ニ於テ通貨ノ膨脹ヲ防クカ爲メ之ヲ決行スルトセハ或ハ機宜ニ適ストセン今ヤ償金概テ既ニ使用シ盡シ外資又輸入ニ可ナラサル場合ニ於テ唯兌換券收縮ノ爲メ故サラニ外資ヲ入ントスルハ豈ニ時機ノ宜シキヲ得タリトセンヤ矧ヤ我邦正貨ノ濫出スヘキモノハ既ニ濫出シ了リ此上濫出セントセハ忽チニシテ通貨ノ大拂底ヲ生シ金融逼塞ノ上尙ホ一層ノ逼塞ヲ來シ全ク輸入ノ超過ヲ來スヘキ購買力ヲ失ヒ隨テ物價ノ下落ヲ來シ所謂經濟上自然ノ原則ニ依リ漸ク輸出超過ノ佳境ニ回復スヘキヲ以テ今更兌換制ノ改正ヲ要セサルノミナラス今ヤ貿易上既ニ多少挽回ノ色アル今日ニ於テハ寧ロ手ヲ拱シテ自然

ノ成行ニ放任シ置ク方經濟救済ノ策トシテ寧ロ安全ノ方法ナラント是レ世間蕩々空頼ミスル所ノ所謂無策ヲ以テ策トスルノ無謀策ニシテ官業中止論ノ如キ外資輸入反對論ノ如キ皆ナ此說ニ淵源セサルハナシ我國ナシテ鎖國退嬰自カラ孤獨貧弱ニ安ンシ西勢東漸ノ流勢日ニ其激甚ヲ加ヘ十年前ニ於テハ數千里外歐州ノ強國ナリトシテ風馬牛相及ハサルノ感ヲ抱キシ露獨英佛ハ今ハ轉シテ皆ナ居然タル亞細亞極東ノ大勢力トナリ我ト相隣シテ雄ヲ東洋ニ爭ハントスルノ場合ナルニ拘ハラズ自棄自暴清韓ノ事体滿州ノ處置等舉テ彼等ノ爲ス所ニ放任シ蓬萊仙窟曲ケテ自カラ慰メ自カラ安ンシ以テ一日ノ小康ヲ偷マント決心スルナラハ是レ或ハ一策ナラン若シ果シテ此說ナシテ將來我カ國採ルヘキノ方針タラシメハ維新以來今日ニ到ルノ間一意貫徹シ來リタル開國進取ノ大方針ハ正シク我邦ヲ誤リタル大失策ニシテ鐵道建設ノ如キ郵便電信普及ノ如キ條約改正ノ如キハ最モ此目的ニ反シタル國家ニ禍スルノ事物トシテ痛ク之ヲ排斥シ外國トノ交通ハ成シ得ル限リ之ヲ杜絶シ鐵道電信ノ如キハ寧ロ之ヲ廢絶セシメサルヘカラス殊ニ軍

備擴張ノ如キ若シ外國トノ勢力均衡ニ必要ナシトシ單ニ内國ノ平和ヲ保ツ  
ノ程度ニ止ムルナラハ陸兵三萬軍艦二萬噸モ尙ホ多キニ過クルヤ論ヲ俟タ  
ス鎖國退嬰ト開國進取ト主義ノ分ル、所勢ヒ斯ノ如クナラサルヘカラス論  
者果シテ之ヲ實行スルノ勇氣ヲ有スル乎

論者ニシテ若シ此勇氣ヲ有ストセハ其無智蒙昧殆ント北清拳匪ニ類スルモ  
ノアルハ氣ノ毒ノ至リニ堪ヘサルモ兎ニ角其勇氣ト決心ハ感服スル所ナレ  
共蕩々タル世上退嬰論者モ恐クハ斯ク迄ノ大決心ヲ有スル者ナカラシ予カ  
推察スル所ニ依レハ論者ノ多數モ進取策ノ有利有益ナルヲ知ラサルニ非ス  
ト雖トモ戰後經營以來資本劇增ノ結果今日ノ窮境ニ到リシヲ願ミ再ヒ其覆  
轍ヲ蹈マンコトヲ恐レ前車ノ覆轍ハ兌換券制ノ其宜キヲ得サル又ハ多ク不  
生産事業ニ投資シタル等當然覆轍スヘキ理由アリテ然リシノ緣由ヲ究メス  
隨テ後來此覆轍ノ原因ヲ除去シ專ハラ生産的事業ニ投資シ以テ其轍ヲ蹈マ  
サルノ計畫ヲ立ツルヲ勉メス一モ頽勢ヲ挽回スルニ足ルノ術策ヲ按出スル  
能ハス羹ニ懲リテ膾ヲ吹クノ兒女ノ体ヲ學ヒ苟且儉安只管ニ一時ノ小康ヲ

貪ラントスルニ過キサルカ如シ驚人タル次第ニ非スヤ

論者ハ經濟界ノ窮迫ヲ放任シ此上一層窮迫ヲ増セハ國民ノ購買力ヲ減縮シ  
物價下落、輸出増加、輸入減少、遂ニ回復ノ時アルヘシトテ之ヲ以テ經濟上  
自然ノ原則ニ隨フモノトシ唯一經濟救済策ト爲スモノ、如シ是レ誤解ノ最  
モ甚シキモノニシテ此誤解ヲ打破スルニ非サレハ經濟救済ノ畫策ハ到底實  
行セラル、ニ由ナカルヘシ予カ所謂經濟上自然ノ原則ニ隨フヘシトハ專ハ  
ラ通貨ノ増減、貿易ノ消長ニ就キ之ヲ論シタルナリ一國致富ノ原因タル製  
造工業其他生産力ノ増殖ハ決シテ無爲無能安坐放擲ノ能ク致シ得ル所ニ非  
ス支那帝國ノ衰滅ニ瀕スル所以ノモノハ何ソヤ實ニ此無爲無能安坐放擲ノ  
致ス所ナリ歐米諸強國ノ能ク今日ノ富強アルヲ致ス所以ノモノハ何ソヤ  
官トナク民トナク精勵刻苦日夜生産力ノ増殖ニ從事シタルノ結果ニシテ  
所謂粒々辛苦ノ賜ナリト云ハサルヘカラス世界何レノ處カ無爲無能安坐  
放逸シテ能ク富強ヲ致スモノアラシヤ論者ノ所謂放任主義ナルモノハ我  
帝國ヲ歐米諸強國タラシメスシテ支那老帝國タラシメント欲スルモノナ



論者ノ所謂經濟救済策ナルモノヲ推演セハ輸入ノ超過ハ國民ノ購買力アルニ依ル國民ノ購買力アルハ金力アルニ依ル苟モ金力アルハ輸入ノ超過得テ防クヘカラサルヲ以テ先ツ國民ノ金力ヲ奪ビ之ヲシテ貧苦物ヲ買フノ資力ナカラシメハ輸入ノ超過、力ヲ用ヒスシテ止ムヘシト言フニ過キス此ノ論理ニ據レハ人ノ多ク食費ヲ要スルハ身体強健ニシテ多食スルニ依レハ務メテ身体ヲ衰弱ナラシメ以テ食費ヲ減省スヘシト云フニ同ク多ク論駁ヲ加フルニ値ラサルカ如シト雖モ錚々タル經濟界ノ縉紳ニシテ尙ホ之ヲ口ニスルモノアルニ到テハ勢ヒ之ヲ論辯セサルヲ得ス果シテ論者ノ言ノ如クナラシメハ富ハ人民ヲ奢侈ニ導キ輸入ノ超過ヲ招クノ惡業ニシテ貧ハ人民ヲシテ外品ヲ買ハス國ヲ安靖ニ致スノ善徳ナレハ政府タルモノ大イニ貧困ヲ獎勵シテ益貧ナラシメ痛ク致富ヲ排斥シテ速カニ貧ニ陥ラシムルコトヲ務メサルヘカラス我日本ニシテ他日萬一富實ヲ致サンカ再ヒ外品ヲ購買シテ輸入超過ヲ來スノ恐アリ宜ク正ニ無爲無能ニシテ成ルヘク富實ヲ致サ、ルヲ務

メサルヘカラス未來永久貧困ニ安ンシ富國強兵外國ト衡ヲ争フカ如キハ斷シテ國家ニ禍害アリトシテ痛ク之ヲ禁絶セサルヘカラストノ論斷ニ歸着セシ論者ノ意果シテ茲ニ在ル乎

予カ外資ヲ輸入セント欲スルハ專ハラ兌換券改正ノ爲メ其資金ヲ得ント欲シテ之ヲ論スルニ非ス寧ロ主トシテ生産力ヲ發達セシメン爲メ外資ヲ入レ其機會ヲ利用シテ兌換券制ヲ改正シ正貨ノ濫出ヲ防止セント欲スルニ在リ外資輸入ニ非サレハ生産力ノ發達ヲ促ス能ハス又兌換券制ノ改正ヲ斷行スルニ由ナシ予ハ實ニ一ノ外資輸入ヲ以テ我國經濟救済ノ要素タルヘキ一ノ結果ヲ収メント欲スルニ外ナラサルナリ

### 第三 補助貨幣ノ改造

本年三月衆議院ハ補助貨幣改鑄ニ關ル建議ヲ議決シ之ヲ政府ニ提出セリ此ノ計畫ハ予カ大ニ賛同スル所ニシテ兌換券制改良ノ事業ト伴ヒ併セテ之ヲ決行スルノ必要アリト思量ス計畫ノ大体ヲ明瞭トラシムル爲メ左ニ建議ノ理由書ヲ掲ク

我カ國ノ補助貨幣ハ其形量共ニ大ニ過クルアリ試ニ我カ五拾錢銀貨幣ヲ以テ英ノ一志貨幣、獨ノ一馬克貨幣若クハ米ノ四分一弗貨幣ニ比較セハ其價格ハ皆殆ント同一ナリト雖トモ形量ハ却テ殆ント倍大ノ差アリ故ニ適當ニ之ヲ减小スルヲ可トス例ヘハ貳拾錢銀貨幣ノ量日ニ少量ヲ増加シテ五拾錢銀貨幣ヲ作り現在ノ拾錢銀貨幣ト殆ント同大ノモノヲ貳拾錢銀貨幣トシ拾錢銀貨幣ハ從來ノ五錢銀貨幣ト殆ント同形量タラシムヘシ又青銅貨幣モ均ク形量大ニ過クルヲ以テ皆適當ニ之ヲ减小スヘシ元來補助貨幣ハ定位價貨幣ニシテ標貨ニ過キサルモノナレハ決シテ呼價相當ノ實價ヲ有スルニ非ス專ラ取扱ノ便利ヲ主トセサルヘカラス文明諸國ノ補助貨幣皆彼カ如ク形量共ニ小ナルハ之カ爲メナリ而シテ其結果造幣益金ヲ倍增スルノ利益アリ故ニ補助貨幣ノ形量减小ヲ爲スハ一舉兩得トナルモノタルヲ疑ハス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

補助貨幣改正ノ要旨ハ右ノ理由書ニ依リ甚ク明晰ナリ元來明治初年新貨幣制度創始ノ時ニ當リテハ金貨本位ノ旨趣ヲ採リシト雖モ金銀ノ比價ハ今

日ノ如ク金貴銀低ノ大差ナカリシヲ以テ歐米各國ノ例ヲ酌定シ金銀比價ノ率ヲ定メタルナリ其後金銀比價ノ次第ニ懸隔セルニ隨ヒ事實上銀貨本位ノ形勢ヲ生シ金貨ハ遂ニ一種ノ地金ト同一ノ運命ヲ有シ全ク通貨タルノ効用ヲ喪失セリ明治三十年貨幣法ノ改正ニ依リ金貨本位ノ制ヲ行フヤ從前ノ金貨半量ヲ以テ單位ヲ定メ前ノ拾圓金貨ハ貳拾圓ノ價格ヲ有セシムルコト、シ補助貨ハ殆ント紙幣ト同ク單ニ政府ノ保證ニ依ル標貨ト決定シタルハ此時ニ於テ同時ニ補助貨ノ改正ヲ爲スコト寧ロ適當ナリシナラン

歐米各國苟モ金貨本位ヲ施行スルノ國ハ皆我銀貨ノ半形量ヲ以テ之ヲ倍價ニ通用セシメサルハナシ獨リ墨西哥其銀ハ實價ヲ以テ通用スレ共是レ產銀國タル墨西哥其政府カ經濟政策上一種ノ商品ト同ク盛シニ海外ニ輸出スルノ舉ニ出テタルモノナルヲ以テ普通ノ法貨ト同一視スヘキモノニ非ス臺灣刻印付銀貨、支那馬蹄銀ノ如キ皆實價取引ノ性質ヲ有スルモノニシテ是亦補助貨ト同視スヘカラス

既ニ補助貨ヲ以テ實價ニ關係ナシトセハ徒ラニ巨大重量ノ形量ヲ存スルハ

唯取扱ノ不便ヲ醸スノミニシテ何等効益ノ存スル所ナケレハ速カニ之ヲ改正スルコソ得策ト云ハサルヘカラス殊ニ前章論述セシ兌換券制ノ改正ニ依リ壹圓五圓二種ノ紙幣ヲ廢絶セハ五圓以下ノ受授ハ一ニ補助貨ニ依リ其用ヲ便セサルヘカラス此時ニ當リ若シモ現在ノ補助貨ヲ持續セハ公衆ノ不便蓋シ少小ニ非サルヘシ此點ヨリ之ヲ論スルモ補助貨形量ノ半減ハ是非共之ヲ決行スルヲ得策トス

建議書參照ノ示ス所ニ依レハ三十二年補助銀銅貨現在ノ價格ハ五千四百五拾九萬圓餘ニシテ其實價參千六百九拾九萬圓餘ナルカ故ニ之ヲ半減セハ政府ハ此改正ニ依リ壹千八百四拾九萬圓餘ノ利益ヲ得ヘシト云ヘリ予ハ一層之ヲ敷衍シテ壹圓五圓兩種ノ紙幣撤回ノ結果ハ大イニ補助貨ノ需用ヲ増加スヘキヲ以テ假リニ二分一ノ増加ヲ要スルモノト推定セハ更ニ九百貳拾四萬圓ノ利益ヲ生シ前述ノ利益ヲ併セ貳千七百五拾參萬圓ノ純益ヲ得ヘシトセハ豈ニ好箇ノ財源ニ非ストセンヤ

### 輸出入平準ノ方策

近時我國經濟界窮迫ノ原因、主トシテ貿易上輸入超過、正貨濫出ノ結果ニ外ナラストセハ之ヲ救治スルノ方策、少クトモ輸出入ヲシテ略其平衡ヲ保タシムルノ方法ヲ講究セサルヘカラス從來之ニ對シ我カ當局者執ル所ノ政策ハ殆ント日本銀行ヲシテ其金利ヲ引揚ケシムルニ限定セルモノ、如シ願フニ資本充實、金融緩慢ナレハ金利低下シ資本缺乏、金融塞迫セハ金利率騰スヘキハ經濟上自然ノ趨勢ナルカ故ニ單ニ此理由ヲ以テ日本銀行ニ於テ其金利ヲ上下スルニ止マラシメハ敢テ間然スル所ナシト雖トモ其理由ハ實際之ニ在ラスシテ彼ノ英蘭銀行カ資本吸收ノ手段トシテ金利引揚ヲ行フノ舉ヲ學フニ在ルモノ、如キニ到テハ所謂西施ノ響ニ倣フモノニ非ラサルナキ乎蓋シ英國市場ハ予カ所謂世界的經濟關係ヲ有スルカ故ニ一朝英國ニシテ通貨缺乏金融迫塞ノ爲メ英蘭銀行其金利ヲ引揚ケンカ其影響ハ忽チ大陸諸國ニ波及シ有價證券ハ漸ク英國ヲ去リ正貨流入シテ其缺位ヲ補ヒ自然正貨ノ潤澤ヲ來スヘク之ニ反シ通貨饒多金融緩慢ノ爲メ英蘭銀行其金利ヲ引

下ケンカ忽チ反對ノ影響ヲ生シ正貨去テ有價證券流入スヘク其一消一長ハ恰モ氣壓ノ高低ニ應シテ空氣ノ去來スルカ如ク餘アレハ則チ去リ足ラサレハ則チ來ル是レ世界的經濟法ノ能ク各國ヲ通シテ資本ノ流動ヲ調和シ之ヲ政治的境域タル一國內ニ局限セサルヲ得ル所以ナリ我國ニ在テハ則チ然ラズ日本銀行其金利ヲ引揚クルモ毫モ有價證券ノ外國ニ轉出スルナク又正貨ノ外國ヨリ流入スルナク金融塞迫ハ依然タル金融塞迫ニシテ寸毫ノ効驗アルコトナク其金利ヲ引下クルモ亦毛頭外國市場ニ影響スル所ナキヤ同一ナリ是レ則チ日本の經濟法ノ外國ト資本調和ノ途ナキ所以ニシテ予カ前ニ世界的經濟ニ入ルノ急要ヲ論シタルモ亦之レカ爲ナリ

金利引揚ケノ政略ハ獨リ資本吸收ノ効ナキノミナラス時トシテハ輸出低落ノ助因タルナキヲ保スヘカラス其一例ヲ舉クレハ三十二年中生糸輸出ノ極メテ好況ナリシニ反シ三十三年中甚タ不況ナリシハ前年ニハ佛國博覽會準備ノ爲メ市況隆盛ナリシニ反シ後年ニハ英杜及ヒ北清戰爭ノ爲メ市況沈衰セシモノ主タル原因タリシニ相違ナシト雖トモ我内地金利引揚ケノ影響又

幾分ノ助因タリシモノ、如シ左ニ兩年ノ比較ヲ掲ケン

生糸輸出價格高

六千貳百六拾貳萬圓	三十二年總高
四千四百六拾五萬圓	三十三年總高
差引千七百九拾七萬圓	三十三年輸出減

右ノ減額ハ生糸輸出高ノ減少セルニ依ルニ非スシテ主トシテ價格ノ下落セシニ依ルナリ三十二年ニ於テ千貳百圓乃至千五百圓ノ間ニ昇降セシ生糸代價ハ三十三年ニ於テ七八百圓臺ニ低落セシナリ其低落ノ原因ハ獨リ外戰等ノ爲ニ止マラスシテ過半ハ金利ノ騰貴ニ在リシコト疑ナシ前ニ壹錢六七厘ノ低度ニ在リシ生糸爲替分合ハ日本銀行金利引上ケノ結果俄然三錢四五厘則チ二倍以上ニ騰貴セシナリ以テ生糸商人ハ利息ノ負擔ニ堪フル能ハス先チ爭フテ投ケ賣チ試ミ遂ニ糸價ヲシテ一大暴落ヲ爲スニ到ラシメシハ覆フヘカラサルノ事實ナリ既ニ然リ貿易ノ不權衡ヲ醫センカ爲メ實行シタル金利引揚ケノ結果ハ却テ益其不權衡ヲ助長セシメタルノ傾向ナシトセサルナ

予ナシテ公平ナル批評ヲ試ミシメハ貿易ノ不權衡ヲ醫スルノ目的トシタル日本銀行金利引揚ケノ處置ハ蓋シ一方ニ於テハ幾分カ輸入減少ノ助因トモナリシナラン然レ共他ノ一方ニ於テ現ニ前述ノ如ク又輸出減少ノ助因ト爲リシコト明白ナレハ其何レカ多クシテ何レカ少ナキヤハ今其計數ヲ算出スルニ由ナシト雖トモ到底其目的ヲ達スル能ハサリシハ明白ナリト云ハサルヘカラス予ハ信ス金利ノ高低ハ一ニ金融事情ニ鑑ミテ之ヲ行フヘシ依テ以テ貿易ノ勢ヲ制セント欲スルハ適々以テ貿易ニ禍スルモノナリ金利ノ引揚ケ既ニ貿易ノ頽勢ヲ挽回スヘカラストセハ他ニ之レカ方法ヲ求メサルヘカラス予ハ此問題ヲ解決セン爲メ左ノ三點ヲ研究セント欲ス

第一 勤儉貯蓄

第二 輸入ノ減少

第三 輸出ノ増加

左ニ項ヲ分テ之ヲ論セン

第一 勤儉貯蓄

勤儉貯蓄ノ必要ハ數年前ヨリ經濟界先輩諸氏之ヲ説クコト丁寧反覆至レリ盡セリ今更予カ喋々紆説ヲ爲スノ必要ヲ觀ス殊ニ予カ信スル所ニ依レハ勤儉ノ徳ノ如キハ忠孝仁義正直廉耻等ノ徳ト同ク時ノ古今ヲ論セス地ノ東西ヲ分タス人間社會徧ク服膺スヘキ常德ニシテ家庭ニ在テハ父兄之ヲ子弟ニ薰陶シ校舍ニ於テハ教師之ヲ學生ニ教訓スヘキモノニシテ敢テ等閑ニ附シ去ルヘカラサルハ論ヲ俟タサル所ナリト雖トモ其事タル寧ロ道德論ニ屬シ教育家ノ領域ニ在テハ極メテ重要ナル問題ナルヘキモ經濟論殊ニ焦眉ノ急ニ應スヘキ時事經濟問題トシテハ格段重要視スヘキ價值ヲ有セス加之此勤儉論ヲ以テ外品輸入ノ潮勢ヲ沮遏セント欲スルカ如キハ却テ反對ノ結果ヲ得ルヤ亦計リ知ルヘカラス蓋シ勤儉ノ本旨ハ一家ノ生計上ニ向テ行ハル、モノナレハ若シモ輸入ノ外品ニシテ贅澤品其多キニ居ラシメハ勤儉ノ結果或ハ多少ノ効驗ヲ著ハスヘキモ如何セン輸入ノ多クハ殆ント必要品ニ屬シ到底勤儉論ヲ以テ其潮勢ヲ防遏スルニ由ナキナリ

今試ニ輸入品ノ大別ヲ掲クレハ綿花等素品ヲ第一トシ砂糖、豆、糟、石油等消費品ヲ第二トシ綿糸鐵船車等材料品ヲ第三トシ織物等ヲ第四トス素品及材料品ハ製造工業ノ依テ起ル原料ナレハ其有用品タル素ヨリ論ヲ俟タス消費品中砂糖石油ハ勿論綿織物ノ類ニ到テハ生活上寧ろ外品ヲ用フルノ日本品ヲ用フルヨリ遙カニ經濟的ナルノ事實アルヲ免レサレハ勤儉論ノ結果却テ外品ヲ獎勵スルノ實ヲ生スルナキ乎予カ窃カニ危ム所ナリ

之ヲ要スルニ時事經濟問題トシテハ勤儉論ハ寧ろ之ヲ範圍外ニ措クヲ適當トス貯蓄論ニ到テハ則チ然ラス充分之ヲ政治問題殊ニ經濟問題トシテ論究スルノ價值ヲ有スルモノナリ予ハ前ニ郵便貯金獎勵金附與ノ必要ヲ説ケリ此問題ハ一部ノ論者ヨリ射利的僥倖心ヲ挑發スルモノトシテ駁撃ヲ受ケ又一部ノ人士ヨリ貯蓄銀行營業ニ波動ヲ受ケンコトヲ疑悞シ其反對ヲ受ケタリ然レ共是皆ナ時世ト事實トニ迂遠ナルノ致ス所ナルヘシ貯金ノ必要ハ何人ト雖トモ首肯スル所ナルニ獨リ獎勵金ヲ附與スルノ故ヲ以テ富籤類似ノ射倖心ヲ挑發スルモノトシテ之ヲ排斥ス抑モ富籤ハ其當籤セサル者ハ利

金ヲ得サルノミナラス其元金ヲモ全然之ヲ喪失スルモノナレハ投機ノ最モ極端ナルモノナリ郵便貯金獎勵金ハ則チ然ラス其元金ハ申スニ及ハス相當ノ利息ヲ附シ重利蓄積スルモノニシテ其獎勵金ト稱スルハ殖利一部ノ金額ヲ舉ケ抽籤ヲ以テ之ヲ當籤者ニ分配スルニ過キス現在實行セラル、所勸業債券割増金法ト其性質全ク同一ナリ既ニ割増法ヲ實行シナカラ獨リ獎勵金ヲ排斥スルハ撞着ノ尤モ甚シキモノナリ貯蓄銀行影響ノ懸念ニ到テハ其方法ノ如何ニ依テハ多少之アラン然レ共當局者ハ慎重ノ注意ヲ以テ極メテ着實ノ方法ヲ採ルコトヲ保證セリ其懸念ニ及ハサル又明カナリ予ハ茲ニ其方法ヲ細述スルノ必要ナキヲ信スルヲ以テ暫ク之ヲ大体論ニ止メ更ニ第二ノ問題ニ移ラントス

第二 輸入ノ減少

此問題ニ就テハ世上ノ論者之ニ注目スルモノ鮮少ナラス隨テ講究スヘキ要點一二ニ止マラス特別ナル關稅政策ニ依リ此問題ヲ解決スルハ米國ヲ主トシ歐洲大陸諸國之ヲ行フモノ少カラスト雖トモ我邦ニ於テハ協定稅率ノ存

在スル期間之ヲ論究スルモ畢竟無益ノ徒勞ニ屬スルヲ以テ暫ク之ヲ論題外ニ附シ實際實行シ得ヘキ範圍内ニ於テ論究スル所アラント欲ス  
輸入ノ減少ニ就テハ其手段一二ニ止マラスト雖トモ今之ヲ大別シテ左ノ二項ニ分テ論究スル所アラント欲ス

(イ) 内地生産ノ發達ニ依ル輸入品ノ減少

(ロ) 政治上ノ施設ニ依ル輸入品ノ減少

右二項ノ問題ハ互ニ相關聯シ(イ)ノ問題ニ於テモ素ヨリ政治上ノ援助ヲ要シ(ロ)ノ問題ニ於テモ商業上ノ活動ニ依ルニ非サレハ共ニ其目的ヲ達シ能ハサルハ勿論ナルヲ以テ全然之ヲ分割シ得ル所ニ非スト雖トモ暫ク其主因ニ依リ之ヲ區別セントス

(イ) 内地生産ノ發達ニ依ル輸入品ノ減少

此問題ニ依リ外品ノ輸入ヲ減少スルヲ得ヘキモノ其品類極メテ多ク其方法亦尠カラスト雖トモ予ハ其中最モ顯著ナル二三ノ實例ヲ引證シ以テ他一般ノ品類ヲ類推セント欲ス明治二十三年輸入ノ石油凡六百萬函ユニット此代價千四百

拾六萬圓輸入品中棉花砂糖ニ次キ第三ノ巨額ヲ占ムルモノナリ而シテ其増進力ノ強盛ナル其前年ナル明治二十二年ニ比シ金額ニ於テ六百貳拾四萬圓則テ七割ヲ増加ス將來實ニ侮ルヘカラサル輸入品ナリトス然レ共今内地ニ於ケル越後石油ノ產出額ト其増進力ノ非常ニ強大ナルトナ順ミレハ必シモ深ク恐ル、ニ足ラサルモノアリ越後ノ石油其發見ハ甚ダ舊シト雖トモ新學術ヲ應用シ眞個ノ開發ニ着手シタルハ僅々數年前ニ過キス然ルニ昨年產出額原油凡百萬石精製石油凡貳百萬函ユニット之ヲ代價ニ積算セハ殆ント四百七拾萬圓ニシテ實ニ輸入石油三分ノ一二當レリ技術家ノ推算ニ依レハ越後及北海道石油礦ノ豐富ナル大イニ之レカ開發ニ從事セハ獨リ我邦石油ノ需用ヲ充タスニ足ルニ止マラスト東洋諸國需用ノ石油ハ舉テ之ヲ我邦ヨリ供給スルノ望アリト而シテ目下越後石油ノ產出頗ル増進セルニ拘ハラズ大イニ之ヲ發達セシムル能ハサル所以ノ原因ハ一ニ鐵道運輸力ノ缺乏ニ在ルコト事實ノ證明スル所ニシテ北越及信越線石油車ノ不足殊ニ碓氷嶺アプト式運輸力ノ寡少ナル充分之ヲ需用地ニ運搬スルニ由ナク事業者ハ其緩慢ニ堪フル能ハ

スシテ或ハ越後ヨリ東京ニ達スル輸送鐵管ヲ築造センコトヲ企テ或ハ輕井澤横川間ニ注管設備ヲ爲サンコトヲ計畫スル等其經營慘憺ヲ極ムト雖トモ種々ノ障害ニ遭遇シ未タ之ヲ實行スル能ハス越後石油ノ産出力ヲシテ空シク一方ニ麻痺セシメ置キ却テ他ノ一方ニ於テハ數千萬里ヲ隔リタル露油米油ヲシテ擅ニ我全國ニ跳梁跋扈セシムルニ放任ス世人動モスレハ輸入超過ノ恐ルヘキヲ痛言ス而シテ本邦現ニ斯ノ如キ大産良礦ヲ有シナカラ捨テ、顧ミス勉メテ自カラ外國産ノ石油ヲ用ヒ汲々トシテ日ニ輸入超過ノ少カラシテ是レ懼ル、モノ、如シ其言行ノ相反スル何ソ夫レ甚シキヤ試ニ昨年中石油ノ爲メ海外ニ遺棄シタル千四百萬圓ヲ舉ケ之ヲ北越地方石油ノ開發及其運輸ヲ擔當スヘキ鐵道ノ改良ニ轉用スルトセハ恐クハ兩三年ヲ出テスシテ全然外油ヲ杜絶スルノ偉功ヲ奏スルヲ得ルナラン計茲ニ出テサルノミナラス却テ自カラ鐵道ノ改良ヲ中止シ輸入ヲシテ益其勢ヲ增長セシメント主張スルモノアルニ到ル予ハ實ニ之ヲ評スルノ辭ナキニ苦ムナリ

牛莊大豆及油槽ノ關係又之ニ殊ナラス既往二年間輸入ノ價格ヲ查スルニ

明治三十二年

輸入豆類代價 八百八拾貳萬圓

同 油槽代價 六百七拾九萬圓

計 千五百六拾壹萬圓

明治三十三年

輸入豆類代價 四百七拾八萬圓

同 油槽代價 五百六拾九萬圓

計 千四拾七萬圓

差引三十三年減 五百拾四萬圓

牛莊大豆及油槽輸入ノ開始未タ甚タ遠カラズ明治二十二年ニ於テハ其額漸ク百萬圓ニ止マリシニ近年輸入増進ノ流潮駸々止マス三十二年ニ到リ千五百萬圓ノ巨額ヲ觀ルニ到ル十年間ニシテ實ニ十五倍ノ増加ヲ來セリ昨三十二年ノ五百萬圓餘ヲ減額セルハ生産上ノ趨勢然ラシムルニ非スシテ全ク北清騷亂貿易停止ノ結果ニ外ナラサルナリ而シテ北清騷亂輸入停止ノ場合ニ



於テ輸入大豆ニ代リ其缺位ヲ補フタル者ハ果シテ何物ソ幾分ナカラモ北海道産ノ大豆實ニ其働ヲナシタルナリ其産額左ノ如シ

三十三年中北海道大豆産額

大豆 參拾貳萬四千百四拾八石

代價凡 貳百四拾萬圓

北海道産大豆ノ價格ハ之ヲ其年輸入ノ大豆及油槽代價ニ比スレハ僅カニ二割二分余ノ割合ニ過キスト雖トモ予カ昨年北海道漫遊中ノ觀察ニ依レハ去ル明治三十一年中北海道大豆ノ産額僅カニ拾參萬七千七百石ニ止マリシモノニケ年ニシテ三十二萬石餘則テ二倍三割五分ノ増加ヲ爲シ其他小豆菜種等ノ産額概テ此比例ヲ以テ偉大急激ナル増殖ヲ來シタル所以ノモノハ一ニ北海道官設鐵道ノ敷設ニ在ルコトヲ認メタリ北海道鐵道ノ計畫タルヤ三十年代以降年額僅カニ百萬圓ヲ投シ年々凡三十哩ヲ敷設スルノ設計ニシテ其工事ノ粗雜不整備ナル内地ニ於テハ容易ニ實見シ難キ粗造ノ鐵道ナリ斯ル粗造ノ鐵道ナルニ拘ハラヌ其拓殖上ニ偉功ヲ顯ハシタルハ亦驚クニ足ル

モノアリテ拓殖事業ノ進行ハ鐵道工事ノ進行ト相伴ヒ砂川ヨリ以往新設官線凡百三十哩ノ沿線田野開ケ農業起リ農産收穫ノ際ニ臨メハ鐵道ハ運搬力ノ不足ヲ告ケ諸種ノ雜穀各停車場ニ堆積シ小樽港ハ船舶ノ缺乏ヲ來シ積出荷物倉庫ノ内外ニ停滯シ爲メニ往々穀類ノ腐蝕ヲ招キ貨主ノ損害ヲ生スルノ盛況ヲ呈シタルハ現ニ昨年ノ實例ナリ官設鐵道着手以來年ヲ經ル僅カニ四年資ヲ投スル僅カニ四百萬圓而シテ開拓上ノ成功斯ノ如ク顯著ナリ鐵道營業夫レ自身ニ於テハ未ダ收利ノ見ルヘキモノナシトスルモ若シ開拓上生産力ノ増殖ヲ評價シ之ヲ金額ニ見積ラシメハ恐クハ一三年間ノ增收ヲ以テ鐵道全部ノ建築費ヲ償ヒ得ルノ計算トナラン其國富ヲ増進シ輸入ヲ減少スルノ効果實ニ偉大ナリト云フヘシ然ルニ僅々タル年割額ノ百萬圓尙ホ之ヲ削除シテ益外國大豆ノ輸入ヲ獎勵セントスルモノアリ驚歎言フ所ヲ知ラサルナリ

予ナシテ尙ホ一言ヲ北海道鐵道ニ試マシメヨ予カ實見セシ所ニ依レハ現在運轉開始ノ線路東ハ石狩國上川郡富良野驛ニ止マリ西ハ天塩國士別驛ニ限

リ事實上唯上川原野ヲ東西ニ貫通スルニ過キス然ルニ其成績ノ顯著ナル前  
 述ノ如シ若シ此鐵道ヲシテ北海道第一ノ廣漠ニシテ且豊腴ナル十勝原野ヲ  
 貫通セシメハ其農産増殖ノ効果ハ必ス今日ニ幾倍シ數年ナラスシテ一年千  
 五百萬圓ヲ超過スル牛莊大豆油糟ノ輸入ヲ全然杜絶シ却テ我ヨリ之ヲ輸出  
 スルノ盛況ヲ見ルニ到ランコト決シテ架空ノ想像ニ非サルヘキヲ信ス  
 我邦現時需用スル所諸種ノ鐵及鋼類舉ケテ供給ヲ海外ニ仰ケリ最近二年間  
 ニ於ケル輸入ノ價額ヲ調査スルニ左ノ如シ

三十二年中輸入鐵及鋼類價額	
鐵 釘	貳百貳拾貳萬圓
鐵 條	四拾參萬圓
條鐵及竿鐵	貳百六拾萬圓
其他鐵及鋼	六百六萬圓
機 械 類	五百六拾五萬圓
機關車客貨車	貳百六拾四萬圓

計 千九百六拾萬圓

三十三年中同上

鐵 釘	貳百拾八萬圓
鐵 條	四百七拾五萬圓
條鐵及竿鐵	五百貳拾四萬圓
其他鐵及鋼	九百五拾七萬圓
機 械 類	八百九拾六萬圓
機關車客貨車	貳百四拾貳萬圓
計	參千參百拾貳萬圓

二ケ年ノ平均貳千六百萬圓餘其中ヨリ特別ノ工業ニ屬スル機械車輛ノ二種  
 ナ控除スルモ尙ホ平均壹千六百萬圓餘ニ登ル巨額ナラスト云フヘカラス然  
 レ共鐵及鋼類ノ性質タル其用途ハ極メテ持久的ニシテ其効用ハ概シテ生産  
 的ニ屬シ依テ生スル所ノ利益ハ其價ヲ償フテ餘リアルモノ其多キニ居ルハ

事實ノ明白ナル所ナレハ他ノ綿糸砂糖石油大豆等一時ノ消耗品ト同一視シ其輸入ノ多キヲ觀テ俄カニ憂悞ノ色アル如キハ寧ロ玉石混淆ノ譏ヲ招クヲ免レサルヘシ唯予カ一例トシテ茲ニ掲クル所ノモノハ枝光製鐵所創立以來本年度ノ支出ヲ合算セハ資本ヲ投スルコト千八百萬圓ニ登ルヘシ此製鐵所ニシテ成功スルトスルモ未ダ以テ前掲鐵鋼類輸入ノ全部ヲ製作スルニ足ラサルヘシト雖トモ假リニ一ケ年凡ソ十噸萬内外ノ鐵及鋼ヲ製出スルトセハ壹千萬圓内外ノ輸入額ハ優ニ之ヲ減少スルコトヲ得ヘシ今ヤ九仞ノ功既ニ成ル缺ク所ハ一簣ノ資ノミ若シ一簣ノ資ヲ惜ミ其成效ヲ遲延セシムルカ如キアラハ年々歳々爲メニ失フ所數百萬圓ニ止マラサルヘシ予ハ當局者ノ奮勵監督速カニ其完成ヲ遂ケシメ一日モ早ク内國製ノ鐵鋼ヲ用ヒ鐵道其他ノ築造ニ應用センコトヲ熱望スルモノナリ

以上論スル所ハ皆ナ内國生産ノ發達ニ依リ直接ニ外國品ノ輸入ヲ減少スルノ適例ナリ此他同一ノ事例ヲ以テ類推スヘキモノ甚タ少カラヌ要スルニ輸入減少ヲ致スノ最良手段ハ内國生産力ノ發達ヲ勉ムルニ在ルヤ多言ヲ要セ

スシテ明カナルヘシ

(ロ) 政治上ノ施設ニ依ル輸入品ノ減少

此問題ニ就キ論セント欲スル所ノモノハ現行會計法及附屬規則ノ規定其宜ヲ得サルカ爲メ官廳所用ノ物件ヲ購買スルニ當リ現ニ内國ニ於テ製造シ得ル物品ナルニ拘ハラヌ法規上ノ束縛ニ制セラレ止ヲ得スシテ外國品ヲ購入シ看ス々々内國品ヲ壓倒破滅ニ到ラシメ又ハ發達ノ望アル内國製品ニシテ爲メニ成立ニ到ラサラシムルモノ尠シトセス今最近四年間ニ於ケル官廳購入ノ外國品價格ヲ查スルニ左ノ如シ

明治三十年 參千參百九拾九萬圓

明治三十一年 千九百八拾八萬圓

明治三十二年 四千百九拾五萬圓

明治三十三年 參千九百四拾萬圓

右四ケ年ノ平均參千參百七拾萬圓餘軍艦等特種ノ物件代價平均千七百五拾萬圓ヲ控除スルモ尙ホ平均千六百貳拾萬圓ノ巨額ヲ占ム此中内國ニテ製造

シ得ヘキモノ果シテ幾割ヲ占ムヘキヤ今俄カニ推定スルヲ得スト雖トモ若シ内國製品ニ限り法規上ノ束縛ヲ緩フスルコトヲ得セシメハ其大半ハ多分外國品ヲ要セサルヲ得ルニ到ラン假リニ特種品ヲ控除シタル普通品ノ一半ヲ内國産ニ仰クト推定スルモ尙ホ八百萬圓ノ輸入ヲ減少スルヲ得ヘシ一ハ以テ内國生産力ノ發達ヲ誘起シ一ハ以テ外國品ノ輸入ヲ減縮ス眞ニ一舉兩得ノ策タルヲ失ハズ今日我邦ノ現狀決シテ忽諸ニ附シ去ルヘカラサルノ一問題ナリ若シ夫レ會計法規改正ノ問題ニ到テハ予ノ要求セント欲スル所ノモノ其條款頗ル多ク獨リ物品購入ノ一事項ニ止マラス依テ暫ク大体論ニ止メ更ニ項ヲ改メ細論スル所アラント欲ス

### 第三 輸出ノ増加

輸出ノ増加ハ商業政策上最モ務ムヘキ要務ナルハ寧ロ輸入ノ減省ヨリモ切實ナルヘシ然レトモ輸出獎勵金ヲ與フル等特別ナル保護政策ヲ用フルノ外素ヨリ妙案奇策ノ其間ニ行ハルヘキニ非ス予ハ亦今日ニ於テ特別ナル保護政策ヲ實行センコトヲ欲スルモノニ非ス唯根本的の生産力増殖ノ手段ヲ行ヒ

以テ輸出品ノ増加ヲ致サシムト沙希フニ過キス根本的の生産力増殖ノ手段トハ前ニ所謂交通運輸ノ機關ヲ整備シ以テ製造工業鑛山農林ノ發達ヲ促カサント欲スルニ外ナラズ由來本邦生産質シ充實セル地上地下採收發掘ニ資スルモノ勝テ數フヘカラス唯運輸機關ノ整備セサルカ爲メ空ク之ヲ埋没ニ附シ又ハ資本供給ノ裕ナラサル爲メ徒ラニ之ヲ荒蕪ニ委スルモノ往ク所トシテ皆然ラサルハナシ然ルニ蕩々タル天下ノ人士皆徒ラニ手ヲ拱シテ生産力ノ生長セサルヲ歎ス抑モ亦誰ナカ咎メン運輸機關ノ整備ニ就テハ別ニ細論スル所アルヘシ

### 財政整理ノ方針

近時財政整理行政刷新ノ聲頗ル朝野ニ喧傳セリ惟フニ政府ハ必ス適當ノ方法ニ依リ確實ノ方針ヲ執リ之ヲ完成スルニ躊躇セサルナラン予モ亦此二者殊ニ財政ノ整理ニ對シテ多大ノ希望ヲ有セリ夫レ財政ト謂フ其範域必スシモ一定セス廣ク國家經濟ノ根本ニ參入シ革新整理世界的經濟ノ基礎ヲ確立

スルモ財政ノ整理ナリ單ニ國庫歳出入ニ關スル政務ヲ整理スルモ財政ノ整理ナリ當局者取ル所ノ方針其ノ何レニ屬スルヤ未タ知ルヘカラスト雖トモ予ハ寧ロ前者則テ廣義ノ財政整理ヲ實行セラレンコトヲ切望スルモノナリ

既ニ廣義ノ財政整理トセハ前ニ論セシ外資輸入ノ實行ノ如キ通貨制度ノ改良ノ如キ固ヨリ財政整理ノ一部ニシテ而モ其最モ急要ナル者ナリ此二者ハ前論既ニ之ヲ盡セリ今亦贅セス予ハ先ツ國庫財政ノ現況ニ就キ果シテ一部人士ノ間ニ流傳セラル、如キ危機ニ瀕シタルモノアルヤ否ヤヲ精覈シ次テ其整理ノ方法ヲ講究セント欲ス

國庫財政ノ現況如何

第十五帝國議會ノ協賛ヲ經テ公布セラレタル三十四年度歳入歳出豫算ノ明示スル所ニ依レハ清國事件費以外左ノ計算トナル

三十四年度歳計

經常歳入	貳億百貳拾四萬圓餘
------	-----------

臨時歳入	五千貳百貳拾七萬圓餘
------	------------

計	貳億五千參百五拾貳萬圓
---	-------------

經常歳出	壹億六千四百貳拾八萬圓
------	-------------

臨時歳出	八千七百七拾壹萬圓
------	-----------

計	貳億五千百九拾九萬圓
---	------------

差引歳入超過	百五拾參萬圓
--------	--------

右ノ計算ニ依レハ三十四年度國庫ノ歳計ハ現ニ總計上ニ於テ百五拾參萬圓ノ歳入超過ヲ示スノミノナラス更ニ一步ヲ進メテ經常歳出ヲ以テ經常歳入ニ對比セハ歳入超過ハ一層巨大トナリ參千六百九拾八萬圓ノ餘裕ヲ見ル是レ素ヨリ國庫ノ餘剰ト同視スヘキモノニ非スト雖トモ經常歳入ノ經常歳出ニ比シ多大ノ餘裕アルハ歳計上極メテ良好ナル性質ヲ有スルモノニシテ歳出入總額上ヨリ觀ルモ經常臨時ノ比較上ヨリ論スルモ國庫經濟ハ極メテ健全ナル性質ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス

經常歳入ノ經常歳出ニ對シ多大ノ餘裕アルノ實蹟斯ノ如シ此點ニ就テハ別

ニ論議ヲ挿ムノ點アルヲ見ス更ニ進テ精査ヲ遂クヘキモノハ臨時歳入歳出ノ内容如何ニ在ルヘシ

臨時歳入 五千貳百貳拾七萬圓

此財源別

貳千九百八拾六萬圓 公債募集金

千八百貳拾參萬圓 債金繰入

四百拾八萬圓 官有物拂下外四件

臨時歳出 八千七百七拾壹萬圓

此費途分系別

五百參拾參萬圓餘 製鐵所創立費

貳百六拾七萬圓餘 電話擴張費

參百八拾萬圓 鐵道改良費

百萬圓 北海道鐵道敷設費

千參百九拾五萬圓 (第一期)鐵道建設費

四百拾萬圓

臺灣特別事業費

小計參千八拾六萬圓餘

以上公債支辨ノ事業

貳千五百拾萬圓 軍備擴張費

内

千八百貳拾參萬圓 債金支辨

六百八拾七萬圓 普通歳入支辨

參千七百七拾五萬圓 各省臨時歳出

右普通歳入支辨

臨時歳出再計八千七百七拾壹萬圓

此財源分系別

參千八拾六萬圓 公債支辨

千八百貳拾參萬圓 債金支辨

參千八百六拾貳萬圓 普通歳入支辨

右分計ノ示ス所ニ依レハ臨時歳出ニ於ケル軍備擴張費ノ内千八百貳拾參萬圓ハ債金ノ支辨ニ屬シ其殘額及ヒ各省臨時部歳出合計參千八百六拾貳萬圓ハ普通歳入ノ支辨ニ屬スルヲ以テ是亦別ニ論究ヲ試ムルノ點アルヲ看ス餘ス所ハ公債支辨ニ屬スル製鐵所創立費外五項ニ係ル合計金參千八百六拾六萬圓ノ支辨法如何ニ在ルノミ

鐵道電話製鐵所及臺灣ノ事業費ニ對シ或ハ中止ト云ヒ或ハ繰延ト云ヒ議論紛紛其聲甚タ大ニシテ遂ニ内閣ノ總辭職ヲ見ルニ到リ其影愈遠クシテ愈膨大シ外國ニ流傳シテ信用ノ失墜トナリ爲メニ公債ノ下落ヲ來シ遂ニ外交場裏内兜ヲ見透サルノ嫌アルニ到リシト雖トモ其實相ニ到テハ日本政府國庫ノ財政ハ依然トシテ健全強固ノ實力ヲ有シ爭フ所ノモノハ單ニ公債募集ノ時機如何ヲ論スルニ過キス外間財政ハ危機ヲ傳唱スル既ニ無稽ニ屬ス矧ヤ財政當局者ニシテ輒ク破産呼ハリヲ爲スカ如キニ到テハ實ニ驚キ入タル次第ニアラスヤ

元來公債募集ニ關シ今日ノ事情ニ到ルハ一兩年前ヨリ明カニ豫知シ得

ヘキ明白ナル經行ヲ有スルモノニシテ當局者ハ豫メ之レカ畫策ヲ施スノ餘地ナシト云フヲ得ス予ハ今日一々數字ヲ摘出シ之レヲ明証スルノ自由ヲ有セザルヲ以テ暫ク之ヲ缺如スヘント雖トモ要スルニ預金部及債金部ニ於ケル内外公債ノ買入所有其度ヲ超ヘ政府自カラ巨額ナル自己ノ公債ヲ所有シ一時其運用ニ困究セリト云フニ過キス、去レハ外債等ノ手段ニ依リ其疏通ノ道ヲ開カハ其所有ノ公債ハ依然タル政府ノ財産ニシテ決シテ消滅スヘキモノニ非サレハ一時公債ノ持過ノ如キハ決シテ恐ル、ニ足ラサルナリ

要スルニ我國庫ノ財政タル通常一般ノ政費ハ優ニ經常歳入ノ支フル所トナリ北清事件費ハ新增稅ノ決行ニ依リ三十五年度ニ於テ其借入金ヲ完償シ三基金ノ補填モ三十七年度ヲ終ヘスシテ完結セラルヘク債金會計ハ將來ニ支出スヘキ既定ノ軍備擴張費ヲ支辨スルモ尙ホ幾百萬圓ノ餘剩ヲ存スヘク政府身代ノ確實堅固ナル何等破綻ノ事由アルヘキ痕跡ヲ存セス而シテ將來ニ募集スヘキ公債ハ皆テ直接ニ收益ヲ生スヘキ生産事業ニ投資スルモノニシテ謂ハ、「商賣ノ元資」タルヘキ資本ナレハ會社カ株金ヲ募集シテ鐵道ヲ敷

設スルト何等殊ナル所ナシ若シ會社カ利益最モ多キ事業ヲ起サン爲メ其資本ヲ増募スルヲ見テ破産ノ端緒ナリト慷慨スルモノアラハ誰カ其愚昧ヲ笑ハサルモノアラシ然ルニ政府ノ公債ニ依リ有利ノ事業ヲ起サントスルヤ則チ破産呼ハリヲ爲ス矛盾モ亦甚タシト云フヘシ

殊ニ惟ムヘキハ世ノ經濟論者ニシテ民間事業ノ爲メ外資ヲ容ル、モノアルヲ聽ケハ皆欣然之ヲ歡迎シ之ヲ賞讃セサルハナシ一朝政府事業ノ爲メ外資ヲ借ルノ談ヲ聞ケハ往々眉ヲ蹙メテ其結果ヲ憂悞スルモノアリ試ニ思ヘ假令ヘ債務者ハ人民タリ國家タルノ別アルモ之ヲ辨濟スルニ當テハ齊ク我國内ノ正貨ヲ以テ之ヲ拂渡サ、ルヘカラス而シテ其利率ノ差ニ到テハ國家ノ信用ヲ以テスルト一私人ノ信用ヲ以テスルトノ間ニ於テ非常ナル高低ノ懸隔ヲ生ズルハ事理ノ最モ踏易キモノナリ均ク外資ヲ入ル、トセハ國家ノ力ヲ以テスルコソ將來大イニ我邦ノ負擔ヲ輕減ナラシムノ利益アルニ拘ハラズ却テ如上ノ見解ヲ有スルモノアリ顛倒モ亦甚シト云フヘシ

斯ク觀察シ來レハ我國庫財政ノ現況タル頗ル健全強固ニシテ毫モ疑悞ヲ抱

クヘキ點ナキハ實ニ明々白々タリ既ニ然リ予ハ更ニ進テ財政整理ノ方針ヲ講究セント欲ス財政整理ノ方針其範圍頗ル廣ク講究スヘキ事項亦少カラスト雖トモ今ハ唯其大綱ヲ論究スルニ止メ前ニ論定セシ外資輸入、通貨制度改良ノ二項ノ外左ノ二項ニ就キ論スル所アラント欲ス

### 第一 税源ノ整理及涵養

#### 第二 會計法規ノ改良

請フ順序ヲ逐フテ之ヲ論セン

#### 第一 税源ノ整理及涵養

凡ソ國家ノ富強ヲ進メ内ニ在テハ國運ノ進暢ニ件ヒ兵政經營ノ用途ニ應スルニ足ラシメ外ニ對シテハ國際關係ノ緩急ニ從ヒ發縱運爲ノ餘地ヲ存スルニ到ラシメ以テ斯民ヲ幸福安全ノ域ニ進メ國威ヲ四方ニ發揚センコトヲ企圖セハ必スヤ先ツ財政ノ方針ヲ確立シ勉メテ經濟ノ調和ヲ計リ大イニ生産力ノ増殖ヲ進メ民力ヲシテ先ツ殷富充實ナラシメ以テ大イニ國家税源ノ發達進暢ヲ致サシメサルヘカラス夫レ然リ我邦前途經營ノ大策實ニ税源ノ



整理及涵養ニ在リ

予カ窃ニ觀察スル所ニ依レハ我日本人ニシテ世界上他ノ有色人種ノ如ク全然白人種ノ奴隸ノ境涯ニ陥リ若クハ其抑壓制御ヲ受ケ恬然トシテ自カラ甘ンスルノ運命ニ安ンセサルヲ得サル無能無力ノ人種ナラシメハ予ハ亦何ヲカ言ハン予ハ信ス我日本人ハ斯ノ如キノ劣等人種ニ非サルナリ其富強ノ度ノ歐米強國ニ比シ及ハサル遠キ所以ノモノハ唯其開化ノ度ノ稍後レタルニ依ルノミ勉メテ怠ラスンハ其ノ途ニ歐米強國ニ追及スルコト必スシモ望外ノ事ニ非ス既ニ然リ我々生テ明治昭代ニ享クルモノハ少クトモ我國ヲ歐米諸國ニ比シ對峙シテ耻ルナキノ地位ニ進メシメンコトハ祖先ニ對シ子孫ニ對シ辭スヘカラサルノ責任ナリト云ハサルヘカラス

西勢東漸ノ流潮日ニ月ニ其速力ヲ加ヘ五年前ニ計畫セシ戰後經營ニ屬スル軍備ノ擴張ハ今ヤ漸ク成ルヲ告ケントスルノ場合ニ際シ東洋ニ於ケル列國勢力均衡ノ鈞合ハ業ニ已ニ其平準ヲ失ハントセリ若シ其平準ヲ失ハサラント欲セハ勢口再度二度ノ擴張ヲ計畫セサルヲ得ス今日ノ財政果シテ能ク之

ニ堪ユルヲ得ルヤ予テシテ腹藏ナク之ヲ評セシメハ獨リ再度ノ擴張ニ堪ユル能ハサルノミナラス今日ノ現況ヲ以セハ既成ノ軍備モ一朝緩急ノ時ニ臨ミ財用ノ給セサルカ爲メ途ニ其用ヲ爲ス能ハサルニ陥ラントス近時露英ノ新聞我カ貴族院ノ増税ニ反對セシヲ聞キ日本ノ能ク爲スナキヲ論斷セシモノ少カラス財政ノ振ハサル直ニ國威ノ失墜ヲ招クコト斯ノ如ク夫レ速カナリ鑑ミサルヘカラス

我日本ヲシテ將來軍備ノ擴張ヲ爲シ能ハストスルモ尙ホ東洋ニ於ケル列國トノ勢力均衡ヲ保ツ能ハサルコト實ニ前述ノ如シ矧ヤ萬一財政上ノ關係ヨリ既成ノ軍備ヲシテ其働ヲ全フスルヲ得サラシメハ爲メニ國威ヲ失墜シ途ニ他ノ有色人種ト同一ノ運命ニ陥リ他ノ制御ヲ受ケサルヲ得サルニ到ランコト決シテ架空ノ想像ト云フヘカラス予ハ信ス我邦ニシテ將來列國ト轡ヲ駢ヘテ共ニ東洋ニ馳騁シ大イニ後レヲ取ラサラント欲セハ將來少クトモ平均一年壹千萬圓以上ノ政費ヲ増加スルコトヲ覺悟セサルヘカラス一年ニシテ壹千萬圓ハ五年ニシテ五千萬圓ノ増加ヲ來ス此財源ヲ得ント欲セハ豫メ

税源ヲ涵養セサルヘカラス税源涵養ノ途一ニ生産力ヲ發達シ民力ヲ培養スルニ在リ

大体上ヨリ之ヲ論スレハ五千萬圓ノ税源ヲ得ント欲セハ五億圓ノ生産力ヲ増殖スルヲ期セサルヘカラス十二シテ一ヲ取ル決シテ民力ヲ枯渴セシムルノ憂ナシ若シ税源ノ涵養ヲ務メシテ財政ノ窮迫ニ逢フ毎ニ唯増税ノ手段ニ依リ誅求是務メシメハ久シカラスシテ民力漸ク衰退シ爲メニ税源ノ枯渴ヲ來シ途ニ救済スヘカラスナルノ痼疾ニ陷ルナラン生産力ノ増殖一日モ忽ニスヘカラサルナリ

現行ノ税法ヲ通觀スルニ此點ニ於テ大イニ注意ヲ缺クアルヲ疑ハサルヲ得ス予ハ營業稅及ヒ鑛業稅ノ如キハ之ヲ全廢センコトヲ主張スルモノナリ營業稅ハ其徵稅ノ手續キ極メテ煩苛ニシテ而カモ多ク公平ヲ缺クハ世間齊シク確認スル所ニシテ唯此一點ヨリ論スルモ決シテ之ヲ良稅源ナリト云フヘカラス矧ヤ資本稅ノ如キハ現ニ毎年無配當若クハ缺損ヲ繼續シツ、アル會社ニ對シテ苛重ノ稅ヲ課スルアリ鐵道事業ノ如キ國家生産力増殖ノ最要機

關ニ對シテ過重ノ課稅ヲ爲シ之レカ發達ヲ阻遏スルアリ所得稅附加稅及特別稅等一ノ事物ニ對シニ重若クハ三重ノ課稅ヲ爲シ容易ナラサル煩苛ニ陷ラシメ併セテ負擔ニ困マラシムルモノアリ營業稅ノ惡稅タル之ヲ詳論スレハ一片紙ノ能ク悉ス所ニ非ス而シテ營業稅ハ概シテ國家生産増殖ノ原素タルヘキ工業商業運輸業等ニ對テ之ヲ賦課スルモノナレハ之レカ爲メ生産力ノ發達ヲ阻害スルコト實ニ少小ナラス斷シテ之ヲ廢セサルヘカラス鑛業稅ノ如キハ其徵收ノ手續ハ之ヲ營業稅ニ比スレハ寧ろ簡易ナルカ如シト雖トモ鑛業ハ主トシテ外國貿易ト直接ノ關係ヲ有シ或ハ輸出重要品トナリ或ハ輸入品ノ減少トナルヘキ性質ヲ有シ生産力増殖上最モ重要ノ一部ヲ占ムルモノナレハ輸出稅全廢ノ今日ニ在テ尙ホ之ヲ存スルハ經濟政策上ヨリ之ヲ觀ルモ權衡上ヨリ之ヲ論スルモ有害ノ課稅ト云ハサルヘカラス是亦斷シテ全廢セサルヘカラス

其他各地方ニ於ケル市町村特別稅ノ賦課方法ニ就テモ直接生産力ノ阻害ヲ來シ又ハ重複ノ爲メ過重ノ負擔ヲ爲サシメ又ハ煩苛ノ手續ヲ要セシムル等

不當ノ課税少カラス其一例ヲ舉クレハ下流地方材木税徵收ノ爲メ上流地方材木ノ産出ヲ阻害シタルカ如キ大坂市ニ於ケル鐵道特別税ノ如キ皆然ラサルハナシ此等ノ課税法ハ斷シテ之ヲ刷新セサルヘカラス  
 營業税 營業税ヲ全廢スルトセハ無論之ニ代ルヘキ財源ヲ求メサルヘカラス  
 今此二税ノ收入額ヲ案スルニ

三十四年度豫算

營業税 六百拾四萬貳千圓

礦業税 七拾五萬八千圓

計 六百九拾萬圓

予ハ之ヲ補填スルニ酒税ノ増加ヲ以テセント欲ス今更ニ一石五圓ヲ増徴シ  
 貳拾圓トセハ其計算左ノ如シ

四百七萬百二十石

本年増税後造石數見込萬石  
 百分ノ三ヲ減シタル高

此税額八千四百拾萬貳千四百圓 税率一石ニ付貳拾圓

本年増税後一ヶ年分收入見込高

六千貳百九拾四萬五千五拾五圓

差引千八百四拾五萬七千參百四拾五圓 増加

内

六百九拾萬圓 營業税礦業税廢止ニ付減額

殘金千百五拾五萬七千參百四拾五圓 純増

右ノ計算ニ依レハ國庫ハ營業税礦業税ナル生産力ヲ阻害スヘキ惡税ヲ除キ  
 毫モ生産力ニ關係セサル酒税ノ四分ノ一ヲ増加シタルノミニテ現ニ壹千百  
 萬餘圓ノ增收ヲ觀ルコトヲ得所謂一舉兩得ノ策ニシテ毫モ遲疑スヘキ理由  
 アルヲ見ス唯世間ノ一部ニテハ或ハ本年酒税増加ノ改正決行セラレ未ダ半  
 年ヲ越ヘスレテ再ヒ増税ヲ爲スカ如キハ朝令暮改ノ議ヲ免レストノ懸念ヨ  
 リ多少躊躇スルノ論者アラント雖トモ今ヤ經濟革新ノ一大事業ヲ企テ國家  
 財政ノ基礎ヲ確立セントスルノ場合ニ於テハ此等ハ畢竟大事ノ前ノ一小事  
 トシテ之ヲ斷行スルコト正ニ政事家ノ本分タルヘシ  
 營業税礦業税廢止ノ結果ハ鐵道業製造業礦山業其他各種ノ生産業ニ向テ多

大ナル獎勵誘掖ノ効果ヲ與ヘ之レヲ爲メ生産力ノ増殖ヲ促シ貿易上輸出ヲ増シ輸入ヲ減シ數年ナラスシテ大ニ國力ノ發達ヲ來スヘキヤ毫モ疑ヒアルヘカラス其他別項細論セシ所資本ノ供給ノ如キ通貨制度ノ改良ノ如キ交通機關ノ整備ノ如キ一トシテ本ヲ培ヒ源ヲ養ヒ生産ヲ進メ國力ヲ益シ以テ國家ノ財源ヲ裕カニセサルハナシ切ニ當局者ノ深謀遠慮速カニ決行スル所アラントトヲ望ム

第二 會計法規ノ改良

世界廣シト雖トモ人衆多シト雖トモ普天率土我カ日本人ノ如ク小理窟ニ拘泥シテ實利害ニ頓着セサルモノハ恐クハ之ヲカラシ其傾向ハ農ニ少クシテ工ニ加ハリ商ニ多ク政治社會ニ到テハ蕩々トシテ小理窟海ニ沈溺シ苟モ小理窟ニ合センカ如何ナル實害モ之ヲ忍ヒテ除クコトナク苟モ小理窟ニ合セサラシカ如何ナル實益モ之ヲ棄テ、顧ミス之レカ爲メ國庫ノ損害ヲ招キ貿易ノ不利ヲ來スヤ實ニ僅少ノ額ニ非ス一般政治上ノ關係ハ暫ク之ヲ別問題ニ讓リ會計上ニ關シテ此弊ノ如何ヲ指摘セント欲ス

國庫會計上ニ就キ殊ニ杓子定規ノ流行スルハ會計法規ノ制定其宜ニ適セサルニ淵源ス「俗諺ニ曰ク人ヲ看レハ泥棒ト思ヘ」ト會計法規ノ精神實ニ茲ニ出ツ先ツ官吏ヲ不信用ノ位地ニ置キ而シテ其弊害ヲ防止セント欲ス勢ヒ箝制ノ手段ニ依ラサルヘカラス於是乎諸種繁冗ノ規定官吏ノ手足ヲ束縛シ隨テ冗員冗費ノ多キヲ來セリ豫算款項ノ流用ヲ禁ス勢ヒ各款項毎ニ多少ノ餘地ヲ存セサルヘカラス國費ヲ嵩ムルノ一ナリ一出納毎ニ多クノ機關ノ承認ヲ要ス爲メニ冗員ヲ置カサルヘカラス國費ヲ嵩ムルノ二ナリ一出納毎ニ形式上許多ノ文書ヲ作成セサルヘカラス國費ヲ嵩ムルノ三ナリ爰ニ一ノ官署アレハ則テ許多ノ會計吏ヲ要シ臺所賄ニ齷齪スルノ間肝要ノ業務ヲ阻廢スルノ傾向アルコトヲ何レノ官廳モ殆ント同一ナリ

行政官曰ク此事行フヘシ否ラサレハ國家ノ損害ヲ來サン會計官曰ク法ノ精神ノ許サ、ル所行フヘカラス事務官曰ク此事行フヘカラス無益ノ贅費ニ屬ス會計官曰ク法ノ命スル所行ハサルヘカラス損益ノ如キハ法ノ顧ミル所ニ非スト是レ架空ノ警諭ニ非スシテ實際屢遭遇スル所ナリ予ハ敢テ之ヲ以テ

會計官ヲ咎ムルモノニ非ス寧ロ法ヲ守ルノ嚴密ナルヲ賞讃スルモノナレ共之レカ爲メニ國家ヲシテ無益ノ損害ヲ招カシムルニ到テハ法規ノ宜キヲ得サルヲ指摘シテ之レカ改正ヲ求メサルヘカラス

予曾テ某國ノ議會ヲ傍聽シ決算報告ノ場合ニ於テ行政官カ臨機ノ處分ヲ施シ國家ノ利益ヲ保護シタル案件ニ付議院ノ承諾ヲ求ムルニ際シ其處置ノ宜ヲ得タルモノニ對シテハ滿場ノ議員喝采シテ之ヲ認承スルノ實況ヲ目撃シ大イニ其政治運用ノ妙味ニ感歎セシコトアリ我邦ニ於テハ會計検査院ノ檢斷多クハ膠柱ノ見ヲ持シ絶テ運用上ノ活機ヲ帶ヒサルモノ、如ク益行政官ヲシテ拘子定規ニ陷ラシムル傾向アルヲ免レヌ

官吏ヲ不信用ノ地位ニ置ク故ニ官吏ハ其責任ヲ重セス日夜惴々トシテ法規ニ拘泥スルコトヲ是レ務メ目前國庫ノ不利ヲ釀スコト歷々タル場合ニ於テモ勢ヒ之ヲ修正スルコト能ハス依テ以テ國家ノ冗費ヲ來スコト擧ケ算フヘカラス就中其損害ノ最モ甚シキモノハ競争契約ノ場合ナリ之ニ次クモノハ繁冗ナル手續ナリ全ク無益ナルモノハ出納官吏ノ保證金ナリ

官吏保證金ノ制度ハ曾テ歐洲諸國ニ行ハレシモノニシテ我國亦之ヲ模倣シタルニ過キサル共此制度ハ徒ラニ官吏ヲ不信用ノ地位ニ立タシメ德義心ヲ薄弱ナラシメ而シテ實際上ニ於テハ殆ント無益ノ形式ニ過キサルノ事實ヲ認メタルヲ以テ英獨ノ如キ既ニ之ヲ廢止セリト云フ我邦ニ於テモ其結果毫モ殊ナル所ナケレハ斷然之ヲ廢止スヘキハ多言ヲ要セサル所ナルヘシ

會計手續ノ繁冗ナルハ徒ラニ職員ヲ冗多ナラシメ事務ヲ複雑ナラシメ運行ヲ阻滯セシメ費用ヲ冗多ナラシム而シテ何等獲ル所アルヲ見ス速ニ冗ヲ去リ簡ニ就クノ手段ヲ講セサルヘカラス

會計法ニ於テ政府ノ工事及物件ノ賣買貸借ヲ競争契約ニ依ラシムルコトヲ規定シタルハ一方ニ於テハ豫メ情實ノ弊竇ヲ杜キ他方ニ於テハ公平ヲ維持スルノ目的ニ出テタルモノニシテ立法ノ精神ニ於テハ敢テ批難ヲ加フヘキノ點ナシト雖トモ如何ニセン實際上其弊害ノ及フ所殆ント收拾スヘカラサルモノアリ敢テ其概要ヲ論セン

我邦今日ノ現狀タル信用確實ナル會社又ハ相當地位ヲ有スル私人ニ於テ工

事請負又ハ賣買貸借ノ契約執行ニ就キ私人相互ノ間ニ於テハ互ニ信用責任ヲ重シシ濫リニ違約ヲ爲シ若クハ故サヲニ工事又ハ物件ヲ粗悪ナラシメ將來永ク信用ヲ失墜スルカ如キハ直ニ商業上得意ヲ失フモノトシテ痛ク戒慎スル所ナリ然ルニ一朝政府ト契約ヲ締結スルニ及フヤ此等ノ會社私人ハ俄然其態度ヲ變シ亦其信用責任ヲ顧ミルコトナク一見恰モ別人ノ如ク成シ得ル限り工事若クハ物件ヲ粗悪ナラシメント務ム是レ甚ダ怪ムヘキニ似タリト雖トモ毫モ怪ムヘキ事ニ非ス抑モ競争契約ハ其目的一ニ代價ノ低廉ナルニ在レハ若シ地位信用アル會社私人ニシテ其工事若クハ物件ヲ相當善良ナラシメント欲セハ勢ヒ代價ヲシテ相當ノ程度ニ在ラシメサルヘカラス然ルトキハ幾度競争ヲ試ミルモ其落札ハ常ニ他ノ無責任ナル低價ノ入札人ニ壟斷セラレ永遠落札ノ期ナカルヘシ會社若クハ私人ニシテ入札セザレハ則テ止ム苟モ入札爲ス以上ハ勢ヒ相當以外ニ價格ヲ低廉ナラシメ以テ落札ヲ得ンコトヲ希望スルハ素ヨリ當然ナリ既ニ不相當ナル低廉ノ代價ダリ尙ホ之ニ依テ相當ノ利潤ヲ得ント欲セハ其工事若クハ物件ヲ粗悪ナラシ

ムルカ若クハ検査官吏ヲ欺瞞シ其數量ヲ偷ムノ外亦他ノ手段アルヘカラス既ニ然リ如何ニ検査ヲ嚴密ニナスモ到底欺罔セラル、コトナキヲ保スヘカラサルハ事理ノ尤モ踏易キモノナリ

右ノ事實ハ實際一般ノ確認スル所ニシテ今其事例ヲ舉レハ假令ハ同一種ノ石炭ニシテ私人間ノ隨意契約ニ依リ購入スル代價ハ壹萬斤五拾貳圓ナルニ同時ニ政府ノ競争ニ依リ購入スル代價ハ却テ四拾六圓即チ不相當ニ低廉ナルコトアルカ如キ若クハ一旦不合格トシテ排斥セラレタル物件ヲ再三持込ミタル末途ニ滞リナク納入シタルノ例ノ如キ畢竟欺罔ノ一證タルニ外ナラス今日政府購買事務ノ實相概テ此轍ヲ蹈サルハナシ其損害實ニ測リ知ルヘカラサルモノナリ故ニ商人相互ノ間ニ於テハ相當ノ信用德義責任ノ維持セラル、モノアルニ拘ハラヌ一朝政府ニ對スル關係トナルニ及ンテハ信用モナク德義モナク責任モナク一検査官吏ノ眼ヲ偷ミ了レハ能事了ルト爲スモノ、如シ違約金徵收ノ如キハ遞信一省ニシテ一ケ年課スル所拾貳萬六千圓ノ巨額ニ登ルト雖トモ商人ノ多クハ當初ヨリ違約金ヲ代價中ニ算入スルノ

猾手段ヲ弄スレハ毫モ其後ヲ懲ラスニ足ラス公義ノ敗類スル斯クノ如ク甚  
 キニ到テハ其禍唯ニ金錢上ノ損失トシテ冷眼視スヘカラス是果シテ誰ノ罪  
 ソヤ決シテ商人其人ノミヲ咎ムヘカラス會計法規ノ規定驅テ茲ニ陷ラシム  
 ルナリ

競争入札ノ方法ハ獨リ工事若クハ物件ヲ粗悪ナラシメ以テ政府ノ損害ヲ招  
 クニ止マラス今日入札場裏滔天ノ弊害トモ稱スヘキハ商人ノ連盟通謀ニ在  
 リ此ノ弊害ハ工事若クハ物件ヲ粗悪ナラシメタル上尙ホ其代價ヲ不當ニ高  
 貴ナラシムルモノニシテ政府ノ損害ハ前述ノ弊害ニ倍蓰スルモノアリ今其  
 一例ヲ掲クレハ爰ニ一工事若クハ物件ノ競争入札アラシムルノ商人聯貫  
 通謀シテ一ノ落札人ヲ定メ他ハ故サラニ落札人以上ノ高價入札ヲ爲シ開札  
 ノ上豫定ノ落札人落札スレハ他ノ入札人ニ向テ利益ノ分配ヲ爲スノ仕組ナ  
 リ此方法ニ依レハ入札人十一人ニシテ拾萬圓ノ工事ヲ落札スレハ總額ニ割  
 リ則テ貳萬圓ヲ落札人ヨリ他ノ十人ノ入札人ニ贈與シ每人各貳千圓ヲ得ル  
 ルニ在リ萬一此通謀ニ加入セサルモノアレハ百方脅迫威嚇ヲ加ヘ其極衆多

ノ壯士ヲ擁シテ暴行ヲ加フルニ到ル其例決シテ鮮少ナラス此事例ニ依リ  
 此請負ハ名ハ十萬圓ト稱スルモ頭初既ニ貳萬圓ヲ削ラシタルハ實際ノ請負  
 金高ハ八萬圓ニ過キヌ代價ノ高貴ナルニ反シテ工事ノ益粗悪ニ流ルヘキハ  
 尙ハスシテ明白ナルベシ目下或ル都會ニ於テハ數年間一工事又ハ一商品ヲ  
 取扱ヒシコトヲ單ニ入札營業ノ故ヲ以テ居然紳士ノ生活ヲ爲スモノアリ  
 ト云フニ到ル此結果ハ遂ニ正當ノ商人ヲシテ競争場裏ニ近ツクテ潔トセス  
 念テ政府ノ入札ニ絶ダシメ益々以テ不正者ヲ跋扈セシムルニ到レリ  
 今ヤ内國ノ製造工業漸ク將ニ起ラントス從來專ラ外國ノ輸入ニ仰キシ品件  
 ニシテ内地ニ製作シ得ルモノ蓋シ少小ニ非ス然ルニ今尙ホ其大部分ヲ輸入  
 品ニ仰ク所以ノモノハ是亦競争契約ノ結果ニ外ナラス我國工業ノ尙ホ幼稚  
 ナル之ヲ外國品ニ比シ品質善良ニシテ代價亦低廉ナルハ容易ニ望ミ得ヘキ  
 所ニ非ス簡單ニ之ヲ言ヘハ未タ對立平等ノ競争ニ堪ヘ能ハサルノ程度ニ在  
 ルヲ免レス左レ共製造工業ノ最要訣ニシテ品質ノ善良ニ赴クハ熟練ニ在リ  
 價格ノ低廉ニ歸スルハ多製ニ依ルニ違ハサラシメハ今日我カ製造工業ヲ發

達セシメント欲セハ先ツ其製造品ヲ使用シ其業ニ熟練シ且多ク製造セシムルノ機會ヲ與フルヲ務メサルヘカラス然ルニ之ヲ是レ務メスシテ徒ラニ其幼稚ヲ責ルハ寧ロ過酷ヲ失スルナカラシヤハ則チ我邦ノ製造工業ヲ發達セシメ品質ヲシテ益々善良ナラシメ價格ヲシテ益々低廉ナラシメント欲セハ先以テ相當誘掖獎勵スル所ナカラサルヘカラス予ハ決シテ製造工業ニ向テ特別保護ヲ爲スヘシト主張スルモノニ非ス唯政府ニ於テ務メテ内地製造品ヲ使用セハ足レリトスルモノナリ

以上論述スル所ニ依レハ政府ノ工事及物件ノ賣買貸借ニ關シ現行ノ會計法規ハ我國ノ實狀ニ於テ或ハ政府ノ損害ヲ招キ或ハ内國ノ生産ヲ阻害スルノ虞アルヤ瞭トシテ疑ナシ予ハ望ム斷然會計法規ヲ改正シ普通ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關シテハ或ル程度迄隨意契約ノ範圍ヲ擴張シ以テ上述ノ弊實ヲ杜絶スルノ處置ヲ取ルヘシ外國品ニ代ルヘキ内國品ニ關シテハ全然隨意契約ニ依ルコトヲ許スヘシ普通一般ニ需用セラレサル特種ノ物品ニシテ且特殊ノ機械ヲ裝置スルニ非サレハ製造シ難キ物品（假令ハ電話器交換器

ケーブル等ノ類）ニ關シテハ或ル年期間（三年又ハ五年ノ類）ニ渉ル隨意購買契約ヲ爲スコトヲ許スヘシ是レ獨リ國庫ノ損害ヲ防止スルノ一手段タルニ止マラス併セテ内國ノ生産力ヲ増殖シ外品輸入ヲ減少スルノ一大要務ナルヘシ

### 鐵道經濟策

普國鐵道ノ直接ニ國庫財源トシテ多大ノ收益ヲ與ヘ間接ニ生産事業ヲ開發シテ偉大ナル富國強兵ノ事功ヲ擧ケシムルニ到リシ事例ハ前章既ニ論述セル所アリ我國現在官設鐵道ノ成績其規模ノ相懸隔セル僅カニ普國ノ三十分一ノ割合ニ過スト雖トモ其資本ニ對スル收益ノ割合ニ到テハ彼此伯仲ノ間ニ在リテ敢テ徑庭スル所ナシ予ハ我邦現在ノ成績ニ鑑ミ之ヲ國家將來ノ進運ニ照シ今ニ及ンテ後世永久採ルヘキノ政策ヲ定メ鐵道經濟ノ基礎ヲ確立シ一ハ以テ生産發達國力充實富國強兵ノ結果ヲ收メ一ハ以テ國庫ヲシテ未來永遠無盡ノ財源ヲ獲得セシメントヲ期圖スルナリ



鐵道經濟策之ヲ分テ三トス

- 第一 鐵道ノ普及
- 第二 鐵道ノ整備
- 第三 鐵道ノ統一

請フ各項順序ヲ逐テ之ヲ論セシ

第一 鐵道ノ普及

我邦官私鐵道ノ近况ヲ查スルニ明治三十三年度末日ノ概算ニ依レハ臺灣ヲ除キ

官設鐵道

營業哩數	八百二十二哩
總建築費 <small>未開業線共</small>	壹億貳百四拾五萬圓
收入	壹千七百五拾九萬圓
支出	九百參拾八萬圓
純益	八百貳拾壹萬圓

北海道官設鐵道 三十三年九月關ニ依ル

營業哩數	百三哩
總建築費	貳百拾四萬圓
私設鐵道	
營業哩數	二千九百五哩
總資本	貳億貳千四百貳拾參萬圓
拂込資本	壹億八千百貳拾六萬圓
社債及借入金	貳千百五拾貳萬圓
總收入	貳千九百四萬圓
營業費	千四百八拾貳萬圓
純益	千四百貳拾貳萬圓
配當金	千參百貳拾七萬圓
官私鐵道合計	
營業線路	三千八百三十哩

建築資本 參億七百參拾七萬圓

私設鐵道ハ拂込資本社債及借入金ヲ算入ス

右ノ計算ニ依レハ官設鐵道純益ノ割合ハ總資本則チ未開業線ノ資本(凡ソ  
貳千萬圓)ヲ併セタル額ニ對スルモ八朱ニ當リ私設鐵道配當ノ割合ハ平均  
七朱三厘強ニ當リ更ニ官私一切ノ鐵道ヲ平均スレハ七朱半強ニ當ル大体上  
ニ於テハ頗ル良好ナル成績ヲ得タルモノト認メサルヘカラス矧ヤ官私鐵道  
カ我邦生産力ノ發達ニ向テ如何ニ著大ナル効果ヲ示シタルカヲ知ラント欲  
セハ須ク左ノ數字ヲ一見スルヲ要ス

年	官私鐵道營業哩數	輸出 價格	輸入 價格
明治二十年	五九三	五二、四〇	五一、六九
明治二十一年	九二二	六五、七六	六五、五四
明治二十二年	一、一三六	七〇、一七	六六、二三
明治二十三年	一、三九九	五六、六〇	八一、七二
明治二十四年	一、七二六	七九、五二	六二、九二

明治二十五年	一、八七〇	九一、一〇	七一、三二
明治二十六年	一、九三八	八九、七一	八八、二五
明治二十七年	二、一一八	一一三、二四	一一七、四八
明治二十八年	二、二九〇	一三六、一一	一二九、二六
明治二十九年	二、五〇七	一二七、八四	一七一、六七
明治三十年	二、九四八	一六三、一三	二一九、三〇
明治三十一年	三、四二〇	一六五、七五	二七七、五〇
明治三十二年	三、六三八	二二四、九二	二二〇、四〇
明治三十三年	三、八三〇	二〇四、二〇	二八七、三四

貿易増進ノ原因必スシモ鐵道線路長進ノ一事ニ止マラサルハ言ヲ俣タスト  
雖モ交通機關ノ發達カ生産力ノ増加ニ向テ能ク多大ノ効果ヲ與フルモノト  
セハ本邦近年貿易ノ増進ハ主トシテ鐵道發達ノ効果ニ出ツルト推定スルモ  
敢テ不當ニ非サルヘシ唯二十九年以降ニ於テ輸出貿易増進力ノ輸入貿易増  
進力ト相伴フ能ハサリシハ遺憾トスル所ナレ共其原因タル大半ハ軍備擴張

ノ爲メ來リシモノトセハ軍備擴張ノ完成ニ近ツキタル今日以後ニ於テハ漸次平準ヲ得ルニ到ルヘキハ多ク疑ヲ存スルヲ須ヒサルヘシ  
 鐵道ニシテ生産力増殖上必要缺クヘカラサルノ機關ナリトセハ我邦經濟ノ基礎ヲ確立セント欲セハ速カニ之ヲ普及セシムルノ計畫ヲ實行セサルヘカ  
 ラス鐵道經濟策ニシテ其宜ヲ得ハ將來國庫財源ノ重要部分ヲ占メ得ルニ違ハストセハ速カニ之ヲ完成スルノ方法ヲ設定セサルヘカラス我邦現在官私  
 未成線二千二百哩ニ登ルト雖トモ私設ノ計畫ニ係ルモノハ多クハ經濟界ノ悲况ニ際シ挫折沮喪其成效ヲ期スヘキモノ極メテ僅少ナルヲ以テ到底望ヲ  
 屬スヘキモノニ非ス唯官設鐵道第一期線ニ到テハ其既定豫算ハ未タ以テ全部ヲ竣工スルニ足ラストスルモ將來中止等意外ノ出來事生起セサル以上ハ  
 漸次各線ノ竣工ヲ觀ルニ到ルヘキヲ以テ左ニ其概況ヲ掲ケントス

第一期鐵道七線路

延長 凡九百三十哩

工費 凡壹億參千六拾七萬圓

既定豫算 九千四百八拾四萬圓

差引不足 參千五百八拾參萬圓

右線路之内三十三年度迄ニ

開業線 二百七十一哩

此支出濟工費概計凡四千五百萬圓

未成線豫算

殘額概計四千九百八拾四萬圓

右ノ如ク第一期線路ハ三十四年度以降豫算殘額凡ソ五千萬圓ニ加フルニ工費不足額凡參千六百萬圓ヲ追加セハ豫定年限ハ多少ノ延長ヲ要ストスルモ今後六七年間ニハ成功ヲ告クルニ到ラン

然ルニ我邦將來交通脈絡ノ狀況ヲ考ヘ經濟上軍事上必要缺クヘカラサルノ線路ヲ審按セハ少クトモ尙ホ數千哩ノ敷設ヲ要シ其工費亦數億圓ニ登ルヲ免レサルヘシ一見日暮ノ途遠キノ感ナキニ非スト雖トモ國運進步ノ狀況ニ鑑ミ既往ヲ以テ將來ヲ推ストキハ必スシモ落膽スルニ及ハサルモノアリ明

治初年以來鐵道進步ノ實數左ノ如シ

每十年鐵道增進調

明治五年開業線	十	八	哩	前年ニ比シ	五	倍四分増
同 十三年同	九	十八	哩	同	十四	倍四分増
同 二十三年同	千三百九十九	哩	同	同	二	倍七分増
同 三十三年同	三千八百三十	哩	同	同	二	倍七分増

明治十三年以降鐵道發達ノ度合ハ極メテ急激ナリト雖トモ當時ニ在テハ其比較上ノ根基數甚タ僅少ナルヲ以テ未タ以テ將來ノ比例トナスニ足ラスニ二十三年以後ニ在テハ十年間ニ二倍七分則テ二千四百哩ヲ増加シ得タルヲ觀レハ三十四年以後ニ於テ十年間ニ更ニ五千哩則テ三十三年ニ比シ二倍三分ヲ増加スルコトヲ期スルハ強テ過當ノ望ニ非サルヘシ

予テシテ將來敷設スヘキ全國各線路ニ就キ其脈絡貫通ノ要ヲ述ヘ地圖的說明ヲ試マシムルハ蓋シ此短小論文ノ能ク容ル、所ニ非サルナリ而シテ前述將來ノ希望ノ如キハ唯其大目的ヲ舉グルニ過キスシテ今日直テ二十年間繼

續ノ設計ヲ確定スヘシト主張スルモノニ非ス要スルニ目下着手中ノ第一期線ハ速カニ其豫算ノ不足ヲ補足シ成シ得ル限り其成功ヲ急ナラシムヘシ目下未確定ノ線路ト雖トモ舞鶴線ノ如キ橫濱八王子線ノ如キ其他貫通連絡上一日ヲ緩フスヘカラサル線路ニ就テハ速カニ其豫算ヲ確定シ以テ既設鐵道ノ効用ヲ全カラシメ其利益ヲ増進スルノ方策ヲ實行スヘシト言フニ外ナラサルナリ

第二 鐵道ノ整備

鐵道ノ整備則テ既成鐵道ノ設備ヲ完全ニスルハ鐵道經濟上寧ロ鐵道普及ノ急ナルヨリモ急ナルヘシ陸上ニ於ケル瀛車ト海上ニ於ケル船舶トハ其目的効用殆ント全ク同一ニシテ瀛車ハ陸上ノ船舶、船舶ハ海上ノ瀛車ナリト形容スルモ決シテ不當ニ非サルヘシ夫レ然リ陸盡レハ船舶、瀛車ヲ受ケ海極マレハ瀛車、船舶ニ接スルコト恰モ連絡鐵道ノ乗換ト同一様ナラサルヘカラス歐米文明國鐵道水運ノ連絡、假令僻陬ノ新開地タリトモ皆テ此設備ヲ完フセサルモノナシ然ルニ如何ナル理由ニ依ルカ我國ニ於テハ鐵道ノ延長

既三三千八百哩ヲ超ヘ商船ノ噸數七十六萬噸ニ昇リタルニ關ハラズ鐵道船舶ノ二者ハ恰モ痛癢相關セサルモノ、觀テ呈シ如何ナル重要ノ開港場タリトモ一モ連絡設備ノ具ハルモノナク鐵道船舶遠ク相隔リ共ニ平然トシテ汝ハ汝タリ我ハ我タリト濟シ顔ヲ爲スモノ、如シ天下ノ奇怪實ニ之ヨリ甚シキハナシ斯クノ如キハ數千哩ノ鐵道數十萬噸ノ船舶アリト雖トモ其効用ノ大半ヲ喪フモノナリト斷言スルモ誰カ之ヲ誣言ナリト言フヲ得ンヤ

海陸連絡設備ノ完カラサル爲メ失フ所ノ利益受クル所ノ損害果シテ若干ソヤ多クノ場合ニ於テハ僅ニ二三哩ニ超ヘサル港灣内鐵道船舶間、積卸及解船ノ費用ヲ要スルコト鐵道荷物運賃ノ三十哩乃至五十哩分ニ當リ船舶運賃ノ百海里乃至百五十海里分ニ内外ス荷物ノ延滞又ハ損傷ヨリ生スル損害ハ此外タリ而シテ船舶ニ在テハ設備完全ナル港灣ナレハ二十四時間以内ニ積卸ヲ終了シ得ヘキ場合ニ於テモ動モスレハ三四日若クハ一週日ヲ要スルコト殆ント通常タルカ故ニ巨船ニ在テハ一日ノ費用數百圓ヲ要スルモノハ全ク無益ノ冗費ニ屬シ皆運賃ニ添加シテ荷主ノ負擔トナル凡ソ此等ノ冗費損

失ハ結局舉テ其貨物ノ擔フ所トナリ代價ノ高騰トナリ以テ生産力ヲ阻害スルコトヲ致ス獨リ私人ノ損害ノミナラス實ニ國家富實ノ進路ヲ遮斷スルノ障壁ナリト云ハサルヘカラス

海陸連絡設備ノ急要既ニ斯ノ如シ而シテ既成鐵道設備完成ノ急要亦之ニ異ナラス複線工事以外、停車場及倉庫ノ擴張、車輛ノ増加、起重器ノ据附等皆旅客貨物増加ノ程度ニ應シテ之レカ設備ヲ施サ、ルヘカラス例セハ東海道鐵道ノ如キ二十八年年度ニ於テ乗客千三百萬人貨物八十萬噸ヨリ三十二年度ニ於テハ乗客二千三百萬人貨物百八十萬噸ニ増加シタルカ如キ五ヶ年ニシテ二倍内外ノ増進ヲ來セリ當局者ハ無論之ニ應スル所以ノ設備ニ怠ラサルヘシト雖トモ車輛其他設備ノ増進ハ動モスレハ貨物増加ノ趨勢ニ伴フコトヲ得スシテ充分ノ力需用ニ應スル能ハス爲メニ貨物ヲ淹滞セシムルノ傾向ナシトセス鐵道經濟上最モ憂フヘキモノトス蓋シ鐵道經濟ニ於テ既成鐵道ノ需用ニ應スル爲メ資本ヲ増加スルハ車輛費等比較的少額ノ資本ヲ以テ多大ノ收入ヲ増加シ得ルカ故ニ新設鐵道ノ線路全部ニ向テ巨額ノ資本ヲ投

下スルヲ要スルモノニ比シ其利益ノ割合著シク饒多ナルハ數ノ最モ睹易キモノナレハ既成鐵道ノ改良ヲ怠リ貨物ヲ停滯セシムルカ如キハ實ニ經濟ニ迂遠ナルノ甚シキモノト云ハサルヘカラス

官設既成鐵道改良費ハ二十九年度以降七ケ年繼續費ヲ以テ貳千六百五拾五萬圓ノ事業經營中ニ係ルト雖トモ其額僅少ニシテ未タ以テ實際ノ需用ヲ充タスニ足ラス其年限モ亦三十五年度ニ於テ盡ルモノナレハ更ニ適當ノ設計ヲ立テ其設備ヲシテ常ニ貨客増加ノ度合ト相伴ハシメ益々利益ヲ増進センコトヲ企圖セラルヘカラス

本問題ノ要件ハ上述海陸連絡設備ノ完成ト既成鐵道設備ノ改善トノ二件ニ外ナラス此二件ハ急務中ノ急務ニシテ共ニ既成鐵道ノ効用ヲ完フセシムル爲メ一日モ等閑ニ附シ去ルヘカラサル緊要問題ナリ

### 第三 鐵道ノ統一

鐵道ノ統一ハ政治經濟ヨリ觀察スルモ商業經濟ヨリ論究スルモ將タ軍事關係ヨリ商榷スルモ敢テ忽諸ニ附スヘカラサル重要問題ニシテ前述鐵道ノ普

及、鐵道ノ整備ト共ニ相俟テ其效果ヲ全フスルヲ得ヘキモノトス近年歐州大陸諸國普魯西ノ如キ瑞西ノ如キ皆ナ鐵道統一ノ政策ヲ實行シ偉大ノ効果ヲ収メ壞太利洪牙利ノ如キ白耳義ノ如キ丁抹ノ如キ今正ニ統一ノ進路ニ向テ政策ヲ行ヒツ、アル所以ノモノハ國家富強ノ素因實ニ鐵道政策ノ其宜ヲ得ルニ在ルヲ確認シタルニ依ラスンハアラス本邦ノ如キ後進國ニシテ經濟上特ニ前進國ニ追及スルノ急要アルモノハ鐵道政策ヲ採ラスシテ將タ何ニ依テ國家ノ富強ヲ企圖スルヲ得ンヤ  
左ニ右諸國鐵道事業ノ實況ヲ掲ケ參照ニ資セント欲ス

#### 普魯西國

官業鐵道 三萬百九十三哩

民業鐵道 二千百五十九哩

#### 瑞西國

官業 二千三百十六哩

但千八百九十八年ノ決定ニ依リ全國鐵道ヲ買收シテ一切國有トナス

- 埃 太 利 官 業 五千九百五十哩
- 民 業 四千八百六十二哩
- 洪 牙 利 官 業 八千三百十五哩
- 民 業 千八百二十二哩
- 白 耳 義 官 業 二千六十九哩
- 民 業 七百九十八哩
- 丁 抹 官 業 千八百哩
- 民 業 四百六十哩

軍事上ノ關係ハ暫ク之ヲ別問題トナシ予ハ專ハラ經濟上ノ點ニ就キ鐵道ノ統一則チ國有鐵道ノ利害ヲ講究セント欲ス近年我邦ニ於テモ國有鐵道論ヲ

主唱スルモノ朝野其人ニ乏シカラス昨三十二年ニ於テハ政府自カラ鐵道買收法案ヲ帝國議會ニ提出スルニ到リシト雖トモ惜イ哉未タ衆議院ノ議事ニ附スルニ及ハスシテ議院ノ閉會ヲ告クルニ到レリ此等鐵道國有論者ノ理由トスル所ヲ聞クニ軍事關係ヲ主張スルニ非サレハ多クハ經濟界救濟ノ一方策トシテ之ヲ實行センコトヲ主張スルモノナリ鐵道國有ノ軍事上ニ有力ナル一大勢援ヲ與フヘキハ予モ亦滿腹ノ同意ヲ表スル所ナレトモ今ヤ經濟意見ヲ論述スル場合ニ於テハ當然之ヲ論題外ニ附セサルヘカラス而シテ鐵道國有ノ結果多少經濟界救濟ノ利益ヲ生スヘキハ予モ亦之ヲ否認スルモノニ非スト雖トモ單ニ經濟界救濟ノ目的ヲ以テ鐵道國有ヲ斷行スヘシト云フカ如キニ到テハ予ノ首肯シ能ハサル所ニシテ予ノ鐵道國有ヲ主張スルノ本旨ハ一ニ鐵道ノ統一ニ在リ統一ノ結果ニ依リ運輸機關ノ疏通活動ヲ致サシメ依テ以テ生産力ノ發達ヲ促シ併セテ將來國庫財源ノ一要素タラシメント欲スルニ在リ若シ夫レ之ニ依テ目下經濟界ハ悲境ヲ救濟スルヲ得ハ一個目的以外ノ副産物ヲ獲タルモノトシテ世人ノ普ク其慶ヲ享クルヲ歡喜スルノミ

鐵道統一ヨリ生スヘキ利益甚ク多シ今其最モ大ナル者ヲ舉クレハ

(イ) 運輸ノ疏通

(ロ) 運搬力ノ増加

(ハ) 設備ノ統一

此等ハ皆ナ統一ニ依テ直接ニ生起スヘキ効益ニシテ(イ)運輸ノ疏通ニ就テハ目下官私鐵道ノ分割割據セル各線各其利害ヲ殊ニスルヲ以テ連帶輸送ノ場合ニ於テ自己ノ線路ニ依テ長距離ヲ輸送スヘキモノニ對シテハ喜ンテ其取扱ヲ爲スモ自己線ヲ經過スルコト短少ニシテ他線ヲ經由スルコト遠長ナルモノハ其取扱ヲ拒ミ殊ニ賃金遞減割引法ノ如キハ概テ各線路共通ノ計算ヲ爲スコトヲ肯シセス各別ニ分割計算ヲ爲スヲ以テ荷主ハ長距離ノ輸送ヲ爲スニ拘ハラヌ唯線路所有者ノ同シカラサルノ故ヲ以テ高貴ノ運賃ヲ負擔セサルヲ得サルノ不便ヲ生シ加之各線運輸ノ繁閑必スシモ一樣ナラサルカ故ニ甲線ノ送り出ス所乙線ノ接續點ニ到リ頓ニ停滯ヲ來ス等荷主ノ迷惑ニ方ナラス加之鐵道營業者ニ在テハ車輛及荷物ノ受授、連帶分計ノ精算等

事務ノ煩雜職員ノ冗多又容易ナラサル冗費ヲ來シ雙方ノ不便利實ニ少小ナラス今若シ之ヲ統一ニ歸セハ此等繁冗ノ勞費ハ舉テ之ヲ一洗シ盡スヲ得隨テ運輸ノ疏通ヲ阻害スヘキ中間諸般ノ障壁ハ全ク撤去セラル、ニ到ルヘキハ言ヲ俟タサル所ナレハ爲メニ公衆ノ便益ヲ増進シ物貨ノ流通ヲ圓滑ナラシメ生産力ノ發達ヲ促シ併セテ鐵道ノ利益ヲ増進スルコト毫モ疑ナキ所ナリ

(ロ) 運搬力ノ増加ニ就テモ亦甚ク顯著ナルモノアリ各線各其獨立ノ營業ヲ爲スニ當リ其業務繁閑ノ程度ハ決シテ四季平均スルモノニ非ス亦全國一様ニ消長スルモノニ非ス米穀ノ搬出時季ハ製茶輸出ノ時季ニ非ス生繭ノ輸送期節ハ材木薪炭積出ノ期節ニ異ナリ旅客ノ出入モ亦必スシモ各線同一ノ増減ヲ爲サス然ルニ小線分裂ノ爲メ全ク車輛流用ノ便ヲ失ヒ甲ニ在テハ貨客閑散ノ爲メ空ク車輛ヲ車庫中ニ徒過セシメアルニ拘ハラヌ乙ニ於テハ車輛不足ノ爲メ大イニ貨物ヲ淹滯セシメ旅客ヲ困難セシムルカ如キ各線割據ノ今日ニ在テハ到底相互流用ノ手段アルヘカラス一方ニ於テハ車輛ヲ閑却



シ置キナカラ一方ニ於テハ貨物ヲ停滯シ又ハ謝絶スルカ如キハ獨リ鐵道營業者ノ損失タルニ止マラス之レカ爲メ商機ヲ失ハシメ農工商業ノ發達ヲ阻害スルコト實ニ鮮少ニ非ス蓋シ鐵道線路ノ季節ニ依テ業務繁閑ノ差ヲ生スルハ各線必スシモ一樣ノ程度ニ出テサルヘシト雖トモ予カ經驗スル所ニ依レハ繁閑共ニ凡三割ノ差ヲ生スルモノ、如シ例セハ貨車百輛ニ對シ出荷最モ多キ季節ニ於テハ凡ソ三十輛ノ不足ヲ感シ出荷最モ寡キ季節ニ於テハ却テ三十輛ノ餘剩ヲ生スルヲ免レス果シテ然ラハ鐵道ノ統一ハ直接ニ各線車輛ノ共通トナリ現在ノ車輛數ヲ増加セスシテ二三割ノ運搬力ヲ増加セシメ得ルノ結果ヲ生スヘシ其國家經濟上ニ利益スルコト豈ニ少ナリトスヘケンヤ

(ハ) 設備ノ統一ニ就テハ今日ノ現狀官線及大會社線ニ於テハ未タ甚シキ遲延ヲ見サルト雖トモ小鐵道ニ到テハ軌條ノ輕重橋梁ノ牢否又ハ連接器ノ強弱等其設備ノ差頗ル相懸隔シ到底貫通ノ運轉ヲ爲シ能ハサルモノ少シトセス殊ニ後來海陸連絡ノ設備、貨物積卸ノ裝置等次第ニ鐵道ノ設備ヲ完フ

スルヲ要スルノ時ニ到レハ益完否ノ懸隔ヲ多大ナラシメ運輸機關ノ機能ヲ缺陷セシムルノ虞ナシト云フヘカラス矧ヤ官線及大會社線ニ在テモ科學進歩ノ今日ニ在テハ鐵道用機器ノ改良發明相次テ起リ甲ニ在テハ之ヲ採用シ乙ニ在テハ他式ヲ用ユル等途ニ異式ノ機器ヲシテ我カ鐵道界ニ錯綜セシムルニ到ルヤ疑ヒナシ斯クノ如キハ鐵道事業發達上最モ憂フヘキモノニシテ他日之ヲ齊一ナラシメント欲スルモ經濟上遂ニ言フヘクシテ行フヘカラサルノ空論ニ歸着センコト四五年前ニ於ケル廣軌鐵道論ト其運命ヲ同フスルニ到ラントス是亦察セスンハアルヘカラス

予カ觀察スル所ニ依レハ今ヤ我邦經濟界ノ悲况其極巔ニ達シ民業萎縮株券下落製造工業日ニ衰滅ニ赴ク事業者其困迫ニ堪ユル能ハス頻リニ鐵道買収ヲ政府ニ渴望シ之ヲ以テ唯一ノ救濟策トナスモノ、如シ歐洲諸國或ハ法律ノ執行力ニ依リ或ハ競争ノ權畧手段ニ依リ百方經營辛フシテ買収ノ實行ヲ遂ケシモノト其難易苦樂ノ差實ニ天淵ノ懸隔アリ決シテ同日ニ論スヘキモノニ非ス今ヤ我邦ニ於テハ一舉手一投足ノ勞能ク之ヲ遂行スルニ難カラス

既往將來容易ニ遭遇シ難キ最大好機ニシテ之ヲ千歲一遇ノ際會ト云フモ強  
テ不當ニ非サルヘシ  
私設鐵道買收ノ方法ニ就キ予カ私見ノ概要ヲ言ハシメハ買收代價ヲ通貨ニ  
テ拂渡スコトハ目下國庫ノ狀況之ヲ許サ、ルノミナラス今ヤ有價證券トシ  
テ經濟界ニ充滿セル鐵道株券ヲ舉ケテ一朝急劇ニ之ヲ通貨ニ變更セントセ  
ハ再ヒ經濟界ノ紊亂ヲ招クノ恐アレハ假令國庫ノ事情之ヲ許ストスルモ斷  
シテ之ヲ避ケサルヘカラス左スレハ悉皆公債證書ヲ以テ之ヲ交付センカ諸  
國ノ事例多クハ此方法ニ出テ事理最モ適當ナルニ相違ナシト雖トモ如何セ  
ン公債證書ノ時價九拾圓以下ニ低落セル今日ニ在テハ相當代價以上尙ホ一  
割以上ノ高價ヲ與ヘサレハ買收ニ應セサルヘク爲メニ國庫ノ負債ヲ重カラ  
シムルノ嫌アルノミナラス被買收者モ金融逼迫ノ今日ニ於テハ幾分カ通貨  
ノ拂渡ヲ欲スルハ目下必至ノ情勢ナルニ依リ予ハ之ニ應スルノ方法トシテ  
買收代價ハ一旦一切五朱利附公債證書ヲ以テ之ヲ交付シ其半額ヲ短期公債  
トシ其半額ヲ普通長期公債タラシメント欲ス例セハ爰ニ鐵道買收ノ爲メ貳

億圓ノ公債ヲ交付スルトセンカ内壹億圓ハ普通ノ長期公債ナレ共殘ル壹億  
圓ハ五ヶ年間ニ毎年貳千萬圓ツ、全部ノ抽籤法ニ依リ之ヲ償却スルニ在リ  
此方法ニ依レハ政府ハ一時ニ通貨支辨ノ累ヲ來サス徐ロニ國庫出納ノ準備  
ヲ立テ漸次之ヲ償却スルノ便ヲ有シ被買收者ハ買收公債ノ半額ハ短期公債  
ナルカ故ニ普通公債ノ如ク大下落ノ憂ナク少クトモ九拾八圓ノ時價ヲ有ス  
ヘキヲ以テ今日暴落ヲ極メタル鐵道株券ヲ所有スルニ比シ極メテ安全ナリ  
ト云ハサルヘカラス

此方法ニ依リ私設鐵道ヲ買收スルト假定スルモ其代價算出方ニ就テハ議論  
亦尠カラサルヘシ或ハ四朱利付公債ヲ以テ純益二十五倍ノ割合ニテ買收ス  
ヘシト云ヒ或ハ五朱利附公債ヲ以テ純益二十倍ノ割合ニ依ルヘシト云フモ  
ノアラント雖トモ予ハ今日鐵道株券時價ノ利率七朱以上ニ相當スル場合ニ  
於テ上述短期公債則テ額面ニ近キ時價ヲ有スヘキ五朱利附公債證書ヲ交付  
スルトセハ五朱ノ割合ヲ以テ買收價額ヲ決スルハ寧ロ不相當ニ高價ナル者  
ト思量シ加フルニ私設鐵道買收ノ後其設備ヲシテ略ホ官設鐵道ノ程度ニ同

カラシメント欲セハ少クトモ差向壹哩ニ付壹萬圓以上ノ改良資本ヲ要スル  
 モノト推定スルヲ以テ其損失ヲ擧ケテ國庫ノ負擔ニ歸着セシメサル爲メ五  
 朱五厘ノ割合則テ配當金ノ十八倍一分八厘ヲ以テ其買收代價ヲ算定スルヲ  
 以テ最モ適當ノ價格ナリト確信ス

試ニ上述ノ方法ニ依リ昨三十三年春帝國議會ニ提出セラレタル私設九線路  
 ノ鐵道ヲ買收スルモノト假定シ其代價ヲ算出スルニ左ノ數字ヲ得タリ

私設鐵道九線路三十三年度ノ實況ニ依レハ

線路延長	二千三十八哩
此總資本額	壹億七千六百萬圓
拂込濟資本	壹億參千五百四拾六萬圓
債券及借入金	六百五拾萬圓
總收入	貳千參百拾萬圓
營業費	壹千百參拾五萬圓
純益	壹千百六拾五萬圓

配當金 壹千百參萬圓

右配當金ヲ五朱五厘ノ割合則テ十八倍一分八厘ヲ以テ買收代價ト算定

セハ

買收代價 貳億五拾貳萬圓

○國庫損益計算

貳億五拾貳萬圓	買收價格
六百五拾萬圓	債券借入金償却
貳千參拾八萬圓	改良費 <small>一哩ニ付壹萬圓</small>
計 貳億貳千七百四拾萬圓	
此一ヶ年利子 千百參拾七萬圓	
純益 千百六拾五萬圓	
差引利益 貳拾八萬圓	

○被買收者損益勘定

例ハ某鐵道株 百 株

此拂込金 五千圓  
 此時價 五千貳百圓  
 配 當七朱 參百六拾圓  
 買收價格 六千五百四拾四圓八拾錢  
 此時價 (假リニ九拾八圓ト推定シ) 六千四百拾參圓九拾錢  
 公債利子 參百貳拾七圓貳拾四錢  
 時價利益 千貳百拾參圓九拾錢  
 差引 利子損失 參拾貳圓七拾六錢

此計算ニ依レハ政府ハ貳億圓ヲ以テ二千哩ノ鐵道ヲ買收シ現ニ會社ノ負擔スル債券借入金償却ノ上尙ホ貳千萬圓餘ノ改良費ヲ投シ損益計算ニ於テハ僅カニ貳拾八萬圓ノ利益ヲ見ルニ過キス而シテ私設鐵道ニ於テハ其營業費ニ於テ多少節約ニ過キタルノ傾向アルヲ以テ政府ノ管理ニ歸シタル以上ハ幾分カ費用ノ増加ヲ要スルコトモ亦之ヲ覺悟セサルヘカラスト雖トモ上述

統一ノ利益ニ算シタル繁冗ノ勞費ヲ省キ運搬力ノ増加ヲ來スノ利益モ亦少小ナラサルカ故ニ予ハ買收ノ當時ニ於テハ國庫ヘハ損益共ニ影響ヲ及ボサルモノト推定シ國庫ニ及ボスヘキ大利益ハ遠ク之ヲ將來二期セント欲スルノ胸算ナリ

被買收者ノ損益ニ關シテハ時價ノ上ニ於テハ百株ニ付千貳百餘圓ノ利益ヲ得利子配當ノ上ニ於テハ參拾貳圓餘ノ利益ヲ失フノ計算トナル被買收者中ニハ此參拾貳圓餘ノ損失ニ就キ或ハ不平ヲ唱フル者アルモ計リ難シト雖モ如何ニ政府タリトモ賣買上ニ於テハ相當ノ價格ヲ酌定スヘキモノニシテ故ナク損失ヲ負荷スヘキ理由ナキハ勿論ナレハ被買收者ニシテ己ニ時價ノ點ニ於テ四分一近クノ利益ヲ得ルコト確實ナル以上ハ利子ノ點ニ於テ十分一二足ラサル損失ヲ來スモ何等ノ苦情アルヘキ理由ヲ發見スル能ハス現ニ公債證書大下落ノ今日ニ在テモ其時價ト利率ノ割合ハ五朱五厘強ニ下ラス之ヲ鐵道株券ノ七朱内外ニ在ルモノニ比スレハ公債證書ノ株券ニ比シ信用程度ノ遙カニ上位ニアルヤ多辯ヲ俟タスシテ明カナリ今被買收者ハ時價五千

貳百圓ノ株券ヲ以テ公債證書六千五百餘圓ヲ獲得スルハ恰モ六朱三厘弱ノ割合ヲ以テ公債証書ヲ收得スルノ事實トナリ之ヲ市價ニ比スレハ現ニ八厘弱ノ利益タリ矧ヤ其公債タル短期公債ニシテ之ヲ普通長期ノ公債ニ比較シ遙カニ高價ヲ保ツヘキモノナルニ於テオヤ被買收者ノ利益亦少小ナラスト云ハサルヘカラス

以上論スル所鐵道ノ普及ト云ヒ鐵道ノ整備ト云ヒ鐵道ノ統一ト云ヒ總テ皆ナ方今ノ急務ニシテ國家經濟ヨリ之ヲ言ヘハ直接ニハ將來大イニ國庫收入ノ源ヲ裕カニシ間接ニハ國力ヲ増進シ國家富強ノ基ヲ開クニ足ルヘク商業經濟ヨリ之ヲ觀レハ直接ニハ交通運輸ノ機能ヲ全フシ製造貿易ノ發達ヲ促シ間接ニハ現下衰頹ノ極ニ瀕セル我カ經濟界ヲ救治シテ漸ク平調ニ復セシムルヲ得ヘク實ニ一害ナクシテ數利共ニ起ルノ良計ト云ハサルヘカラス若シ夫レ私設鐵道買收ノ細目及買收後國家經營ノ方法ニ到テハ今之ヲ細論スルニ便ナラサルモノアリ暫ク之ヲ他日ノ講究ニ附ス

## 附言

頃日內閣各大臣財政上意見相協ハサルノ故ヲ以テ總辭職ヲ爲スニ到レリ予未ダ其可否ヲ知ラス獨リ渡邊子爵伊藤侯ニ贈レル書翰ナルモノヲ新聞紙上ニ一見スルニ及ンテヤ驚詫自ラ措ク能ハス遂ニ公餘筆ヲ呵シテ本論ヲ草スルニ到レリ勿卒ノ間行文蕪雜引証粗漫ヲ免レスト雖トモ一片憂國ノ至情進テ茲ニ到ルモノ亦止ヲ得サルナリ而シテ渡邊子爵ノ書翰中亦默々ニ附シ去ルニ忍ヒサルモノアリ敢テ數言ヲ附加セン書翰ニ曰ク抑モ行政刷新財政整理ハ閣下及國武等在野ノ日ヨリ經畫シ內閣組織ノ後朝野ニ唱道シ今日ニ到リ候儀ニテ此所信ニシテ果サ、ラン乎徒ラニ空言壯語ヲ放テ世人ヲ欺瞞スルノ態度ニ陷リ天下ニ對シ重責ヲ曠フスルモノニシテ實ニ千載ノ遺憾ニ之アリ即チ其第一着手トシテ先般提出致候財政整理意見ハ豫テ再三申上候末閣下モ御同意有之候事ニテ實ニ現今國家ノ破産ヲ未前ニ救済スヘキ唯一ノ策ニシテ若シ此策ニシテ不被行儉安交讓此儘姑息ノ小計ニ安ンシ益外債ヲ

募リ官業遂行ヲ以テ能ト爲スノ奇觀ヲ事實ナラシメハ假例時々内閣ノ小康ヲ保ツヘシト雖トモ我帝國モ亦他ノ東方諸國ト同ク財政紊亂ノ爲メ遂ニ衰滅ノ運ニ傾キ維新ノ宏謨モ半途水泡ニ歸シ候ノミナラス施テ社稷ノ安危ニ關シ候殷鑑不遠此場合ニ際シ任意御勇退相成候如キハ薄志弱行之譏千古不可免途ニ獨リ 至尊ヲシテ社稷ヲ憂ヘシムルト申ス事態ニ推移スヘク就テハ閣下ハ猛然昨日ノ態度ヲ御諷シ國家ノ事態御深思ノ上確乎不拔改メテ廟廊ニ御踏止マリノ道ヲ講セラレ上ハ 陛下ニ對シ奉リ下ハ國民ニ對シ至誠一貫國家大計ノ爲メ勇往邁進其終始ヲ全フセラル、ハ維新元勳ノ御位地トシテ殊ニ御反省有之ハ當然ノ事ト存候云々其立言タル沈痛剴切慷慨淋漓以テ世ノ無識者ヲ恐嚇スヘク以テ白面書生ノ同情ヲ博スルハ或ハ之アラシ堂々タル内閣大臣殊ニ財政鹽梅ノ重任ヲ負フタル大藏大臣特ニ戰後經營ノ畫策ニ就キ其要衝ニ膺リ居タル渡邊子爵ニシテ今ニ及ンテ青天白日靦然トシテ斯ル言動ヲ爲シ我帝國ヲ衰滅ニ瀕シタル東方諸國ト同視シ徒ラニ不祥ノ言ヲ發シ以テ外邦ノ輕侮ヲ招クノ媒ヲ爲スカ如キニ到テハ其反覆沒資

任ノ咎斷シテ默過スヘカラサルナリ  
我邦今日財政ノ膨脹ヲ來シ輸出入ノ不平均ヲ招キタルハ其原因主トシテ戰後經營ニ關スル財政ノ規畫ニ出テサルハナシ殊ニ輸入超過ノ最大原因ハ軍備擴張ノ結果ニ外ナラス而シテ渡邊子爵ハ實ニ戰後ノ經營ヲ參畫シタル財政當局者タリシナリ戰後經營ノ畫策セラル、ヤ其資料ヲ外國ニ要スルモノ軍艦以下其價幾千萬圓ヲ以テ數フルニ到ルヤ當初ヨリ明瞭ナレハ此經營ノ完成ヲ告クルニ到ルノ間ニ於テハ一時輸入ノ大超過ヲ來スヘキハ數ノ最モ踏易キモノナリ然ルニ今ヤ戰後經營ノ將ニ終テ告ケントスルノ時機ニ瀕シ其必至ノ影響タル輸入超過資本缺乏ノ結果ヲ實見スルヤ周章狼狽俄然維新以來一貫ノ宏謨タル開國進取ノ大主義ヲ放擲シ萎縮退嬰自カラ小弱國ノ位地ニ退却セントス渡邊子爵ノ所謂薄志弱行獨リ 至尊ヲシテ社稷ヲ憂ヘシムルモノハ夫子自カラ指稱スルニ非スシテ何ソヤ  
渡邊子爵ノ書翰ニ依レハ行政刷新財政整理ハ伊藤侯及渡邊子等在野ノ日ヨリ經畫スル所ナリト果シテ然ラハ渡邊子ノ所謂財政整理意見ナル者ハ假令

近時ノ述作ニ成リタルモノトスルモ其主義方針則チ官業中止ノ意見ハ渡邊子入閣ノ前ニ於テ已ニ自カラ決スル所アリシナラン少クトモ入閣ノ際ハ胸中既ニ成竹アリシナラン果シテ然ラハ財政當局者タル者ハ責任上議會ニ對シ明カニ官業中止ノ必要ヲ宣言シ既定年度割ノ改定ヲ求ムルカ若クハ豫メ豫算不執行ノ事由ヲ言明セサルヘカラス然ルニ啻ニ此等ノ處置ヲ採ラサルノミナラス電話事業ノ如キハ故サラニ翌年度ヨリ既定額百萬圓ヲ三十四年度ニ繰上ルノ提案ニ同意シ鐵道敷設法ノ如キモ藏相自カラ公債募集額六千萬圓ヲ九千五百萬圓ニ改正スルノ法案ヲ提出シ其他比較的不急ノ新事業ニモ同意主張ヲナシナカラ議會閉會後未タ旬日ナラスシテ忽チ官業中止ノ提議ヲ爲シ之レカ爲メ遂ニ内閣ノ瓦解ヲ誘起スルニ到ラシムルカ如キ其反覆常ナキ其無定見ニシテ沒責任ナル書翰中ニ所謂徒ラニ空言壯語ヲ放チ世人ヲ欺瞞スルノ態度ニ陷リ天下ニ對シ重責ヲ曠フスルモノハ渡邊子爵ニ非スシテ誰ソヤ

之ヲ要スルニ渡邊子爵ノ所謂維新ノ宏謨ナルモノハ開國進取我カ帝國ヲ富

強ノ域ニ進メ萬國ニ對峙シテ國光ヲ宣揚セントノ聖旨ヲ指稱シタルニ外ナラサルヘシ戰後ノ經營ナルモノモ實ニ此宏謨ヲ遂行セント欲スルノ目的ニ在リ然ルニ渡邊子爵ハ此戰後經營ノ畫策ニ參與シ進取的政策ヲ翼賛シタル責任アル身ヲ以テ中途經濟界ノ小挫折ニ遭遇スルヤ忽チニシテ意氣沮喪退嬰自小濫リニ國家ノ破産呼ハリヲ爲シ漫リニ官業中止ノ說ヲ唱ヘ以テ我帝國ヲ貧弱孤獨ノ悲境ニ陷ラシメントス渡邊子爵カ伊藤侯ニ求ムル所ノ至誠一貫國家ノ大計ノ爲メ勇往邁進其終始ヲ全フスルモノハ之ヲ渡邊子爵ニ求メスシテ將タ何人ニ求ムヘキヤ予ハ毛頭渡邊子爵ヲ攻撃スルノ意思アルモノニ非ス唯同子爵近來ノ言動ノ大イニ國家ノ進運ヲ阻害スヘキノ虞アルヲ痛惜シ遂ニ本論ヲ草スルノ止ヲ得サルニ到リシヲ悲ム耳

非賣品

明治三十四年五月十八日印刷

明治三十四年五月二日發行



著作者兼  
發行者

田 健 治 郎

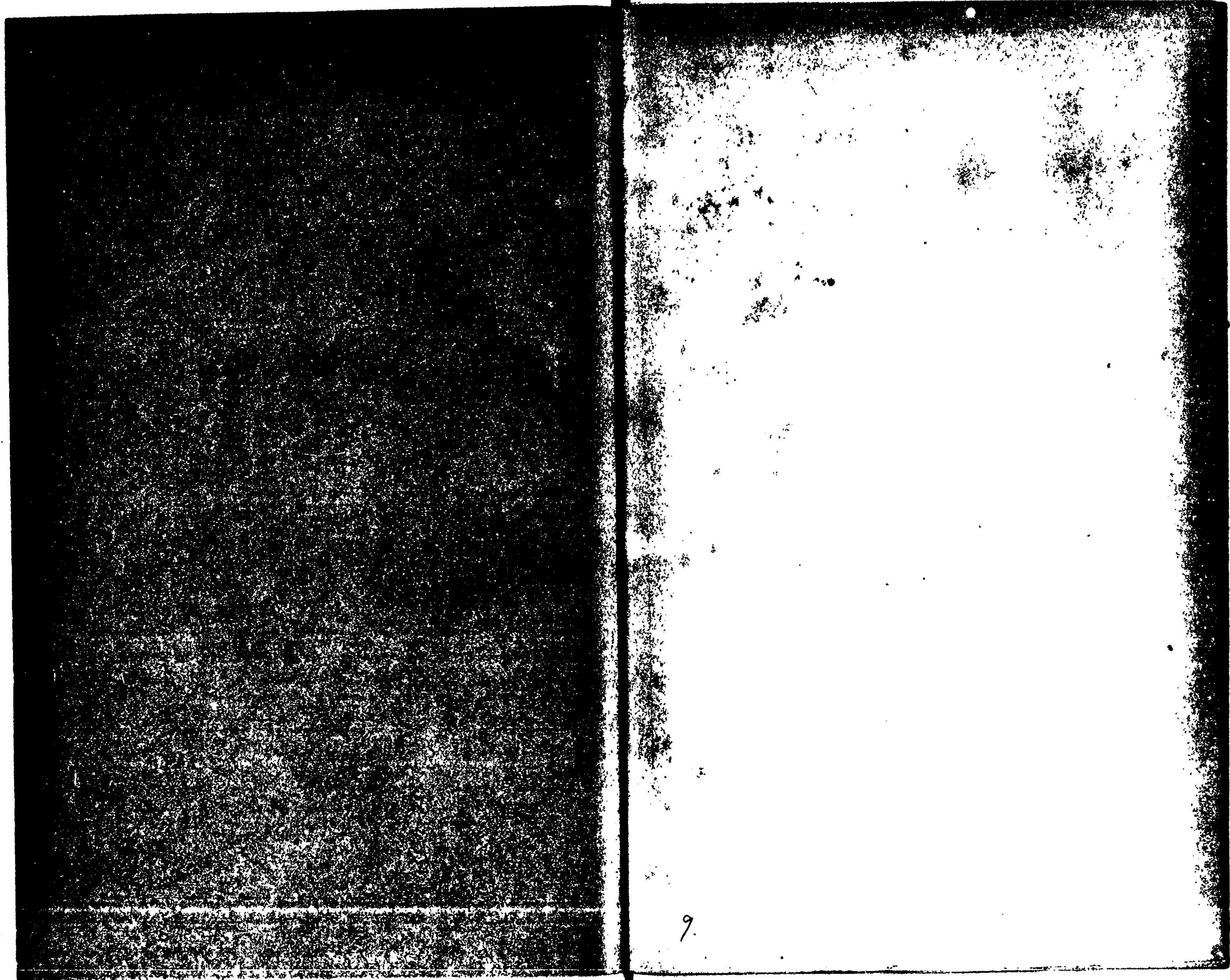
東京市京橋區木挽町八丁目一番地

印刷者

松 嶋 惇

東京市四ッ谷區寺町三番地





9.

71  
9



040565-000-3

91-9

財政意見

田 健治郎/著

M34.5

BDE-0192



